

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

茨城県 笠間市

自治体名：茨城県笠間市

担当課名：笠間市教育委員会教育部学務課

電話番号：0296-77-1101（内線378）

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	240.4km ²
人口	70,794人
公立中学校数	6 校
公立中学校生徒数	1,884 人
部活動数	55 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	地域部活動移行検討委員会設置
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	推進計画策定中 ロードマップ策定

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

現在市内には、中学校が5校、義務教育学校が1校あるが、少子化の影響と部活動の自由参加により部員数が減少傾向にある。チームとしての参加人数に達しない学校は、他校との合同チームで参加している状況である。また、部員減少から学校として部活動数の見直しを進め、新入生の募集を行わない部活動も出てきた。やりたい活動の募集停止を受け、市外のクラブに

所属する生徒も出ている。昨年から2つの部活動が廃部となる。

また、競技経験のない教員の指導に係る負担や長時間労働など指導者の負担も増している。

部員不足や指導者の負担増などから従来の部活動の維持が困難になっている。

平成17年度 生徒数 2,293人
平成27年度 生徒数 2,100人
令和 6年度 生徒数 1,884人
17年前から409人減

部活動全体
令和5年度 生徒数 1,783人
部員数 1,624人
加入率 91%
令和6年度 生徒数 1,884人
部員数 1,622人
加入率 86%

運動部員数
令和5年度 生徒数 1,783人
部員数 1,212人
加入率 68%
令和6年度 生徒数 1,884人
部員数 1,312人
加入率 69.6%

文化部員数
令和5年度 生徒数 1,783人
部員数 260人
加入率 14.6%
令和6年度 生徒数 1,884人
部員数 310人
加入率 16.5%

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	6 校	実施した地域クラブ総数	27 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		カサマジニア クラブ（27 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	4 4 人	全体の運営スタッフ数	3 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
カサマジニア クラブ	教育委員会直営	卓球 みなみ学園義務教育学校 （新）	月 4 回／ 週 1 回	9 時～ 1 2 時	7 年 4 人 8 年 5 人	12 月～ 3 月	みなみ学園義務教育学校卓球場	2 人	3 人（内、兼務 3 人）	月会費 0 円 年会費 0 円	中体連：部活動
カサマジニア クラブ	教育委員会直営	バレーボール 友部中男子 （新）	月 4 回／ 週 1 回	9 時～ 1 2 時	1 年 0 人 2 年 5 人 3 年 5 人	5 月～3 月	友部中学校体育館	1 人	3 人（内、兼務 3 人）	月会費 0 円 年会費 0 円	中体連：部活動
カサマジニア クラブ	教育委員会直営	相撲 友部中 （新）	月 4 回／ 週 1 回	9 時～ 1 2 時	1 年 1 人 2 年 2 人 3 年 3 人	5 月～3 月	友部中学校相撲場	3 人	3 人（内、兼務 3 人）	月会費 0 円 年会費 0 円	中体連：部活動

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
カサマジニアクラブ	教育委員会直営	卓球 友部二中男女（新）	月 4 回／ 週 1 回	9 時～ 1 2 時	1 年 13 人 2 年 8 人 3 年 7 人	5 月～3 月	友部二中卓球場	1 人	3 人（内、兼務 3 人）	月会費 0 円 年会費 0 円	中体連：部活動
カサマジニアクラブ	教育委員会直営	剣道 笠間中（新）	月 4 回／ 週 1 回	8 時～ 1 1 時	1 年 3 人 2 年 5 人 3 年 4 人	5 月～3 月	笠間中武道館	2 人	3 人（内、兼務 3 人）	月会費 0 円 年会費 0 円	中体連：部活動
カサマジニアクラブ	教育委員会直営	卓球 岩間中男子（新）	月 4 回／ 週 1 回	9 時～ 1 2 時	1 年 7 人 2 年 14 人 3 年 11 人	5 月～3 月	岩間中卓球場	2 人	3 人（内、兼務 3 人）	月会費 0 円 年会費 0 円	中体連：部活動
カサマジニアクラブ	教育委員会直営	バレーボール 笠間中女子（新）	月 4 回／ 週 1 回	8 時～ 1 1 時	1 年 4 人 2 年 2 人	5 月～3 月	笠間中学校体育館	1 人	3 人（内、兼務 3 人）	月会費 0 円 年会費 0 円	中体連：部活動
カサマジニアクラブ	教育委員会直営	バレーボール 友部中女子（新）	月 4 回／ 週 1 回	9 時～ 1 2 時	1 年 1 人 2 年 10 人 3 年 5 人	5 月～3 月	友部中体育館	1 人	3 人（内、兼務 3 人）	月会費 0 円 年会費 0 円	中体連：部活動
カサマジニアクラブ	教育委員会直営	卓球 笠間中男子（新）	月 4 回／ 週 1 回	8 時～ 1 1 時	1 年 10 人 2 年 6 人 3 年 6 人	6 月～3 月	笠間中体育館	2 人	3 人（内、兼務 3 人）	月会費 0 円 年会費 0 円	中体連：部活動

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
カサマジニアクラブ	教育委員会直営	卓球 岩間中女子 （新）	月 4 回／ 週 1 回	9 時～ 12 時	1 年 3 人 2 年 3 人 3 年 6 人	5 月～3 月	岩間中卓球場	2 人	3 人（内、兼務 3 人）	月会費 0 円 年会費 0 円	中体連：部活動
カサマジニアクラブ	教育委員会直営	ソフトボール 友部中女子 （新）	月 4 回／ 週 1 回	9 時～ 12 時	1 年 2 人 2 年 3 人 3 年 11 人	5 月～3 月	友部中グラウンド	1 人	3 人（内、兼務 3 人）	月会費 0 円 年会費 0 円	中体連：部活動
カサマジニアクラブ	教育委員会直営	卓球 笠間中女子 （新）	月 4 回／ 週 1 回	8 時～ 11 時	1 年 2 人 2 年 2 人 3 年 3 人	6 月～3 月	笠間中体育館	2 人	3 人（内、兼務 3 人）	月会費 0 円 年会費 0 円	中体連：部活動
カサマジニアクラブ	教育委員会直営	陸上 笠間中 （新）	月 4 回／ 週 1 回	8 時～ 11 時	1 年 10 人 2 年 3 人 3 年 2 人	6 月～3 月	笠間中グラウンド	3 人	3 人（内、兼務 3 人）	月会費 0 円 年会費 0 円	中体連：部活動
カサマジニアクラブ	教育委員会直営	ソフトテニス 笠間中男子 （新）	月 4 回／ 週 1 回	8 時～ 11 時	1 年 7 人 2 年 4 人	6 月～3 月	笠間中テニスコート	1 人	3 人（内、兼務 3 人）	月会費 0 円 年会費 0 円	中体連：部活動
カサマジニアクラブ	教育委員会直営	バスケットボール 笠間中男子 （新）	月 4 回／ 週 1 回	8 時～ 11 時	1 年 6 人 2 年 7 人 3 年 1 人	6 月～3 月	笠間中体育館	2 人	3 人（内、兼務 3 人）	月会費 0 円 年会費 0 円	中体連：部活動

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
カサマジニアクラブ	教育委員会直営	ソフトテニス 笠間中女子 （新）	月 4 回／ 週 1 回	8 時～ 11 時	1 年 3 人 2 年 2 人 3 年 1 人	6 月～3 月	笠間中 テニスコート	1 人	3 人（内、兼 務 3 人）	月会費 0 円 年会費 0 円	中体連：部 活動
カサマジニアクラブ	教育委員会直営	サッカー 笠間中 （新）	月 4 回／ 週 1 回	8 時～ 11 時	1 年 3 人 2 年 10 人 3 年 4 人	6 月～3 月	笠間中 グラウンド	2 人	3 人（内、兼 務 3 人）	月会費 0 円 年会費 0 円	中体連：部 活動
カサマジニアクラブ	教育委員会直営	バスケットボール 笠間中女子 （新）	月 4 回／ 週 1 回	8 時～ 11 時	1 年 4 人 2 年 2 人 3 年 3 人	6 月～3 月	笠間中 体育館	2 人	3 人（内、兼 務 3 人）	月会費 0 円 年会費 0 円	中体連：部 活動
カサマジニアクラブ	教育委員会直営	野球 笠間中 （新）	9 か月／1 回	8 時～ 11 時	1 年 3 人	7 月	笠間中 グラウンド	2 人	3 人（内、兼 務 3 人）	月会費 0 円 年会費 0 円	中体連：部 活動
カサマジニアクラブ	教育委員会直営	剣道 友部中 （新）	月 4 回／ 週 1 回	9 時～ 12 時	1 年 7 人 2 年 11 人	11 月～ 3 月	友部中 武道館	2 人	3 人（内、兼 務 3 人）	月会費 0 円 年会費 0 円	中体連：部 活動
カサマジニアクラブ	教育委員会直営	柔道 友部中 （新）	月 4 回／ 週 1 回	9 時～ 12 時	1 年 1 人 2 年 1 人	12 月～ 3 月	友部中 武道館	1 人	3 人（内、兼 務 3 人）	月会費 0 円 年会費 0 円	中体連：部 活動

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
カサマジニアクラブ	教育委員会直営	ソフトテニス 稲田中男子 （新）	月 4 回／ 週 1 回	9 時～ 12 時	1 年 3 人 2 年 1 人	12 月～ 3 月	稲田中 テニスコート	1 人	3 人（内、兼 務 3 人）	月会費 0 円 年会費 0 円	中体連：部 活動
カサマジニアクラブ	教育委員会直営	サッカー 稲田中 （新）	月 4 回／ 週 1 回	9 時～ 12 時	1 年 3 人 2 年 5 人	12 月～ 3 月	稲田中 グラウンド	1 人	3 人（内、兼 務 3 人）	月会費 0 円 年会費 0 円	中体連：部 活動
カサマジニアクラブ	教育委員会直営	柔道 友部二中 （新）	月 4 回／ 週 1 回	9 時～ 12 時	1 年 8 人 2 年 6 人 3 年 1 人	5 月～3 月	友部二中 柔道場	1 人	3 人（内、兼 務 3 人）	月会費 0 円 年会費 0 円	中体連：部 活動
カサマジニアクラブ	教育委員会直営	ゴルフ みなみ学園義 務教育学校 （新）	月 4 回／ 週 1 回	9 時～ 12 時	7 年 7 人 8 年 2 人 9 年 2 人	5 月～3 月	みなみ学 園義務教 育学校 卓球場	3 人	3 人（内、兼 務 3 人）	月会費 0 円 年会費 0 円	中体連：部 活動
カサマジニアクラブ	教育委員会直営	卓球 友部二中女 子（新）	月 4 回／ 週 1 回	9 時～ 12 時	1 年 5 人 2 年 1 人 3 年 4 人	5 月～3 月	友部二中 卓球場	1 人	3 人（内、兼 務 3 人）	月会費 0 円 年会費 0 円	中体連：部 活動
カサマジニアクラブ	教育委員会直営	柔道 笠間中 （新）	月 4 回／ 週 1 回	8 時～ 11 時	1 年 2 人	12 月～ 3 月	笠間中 柔道場	1 人	3 人（内、兼 務 3 人）	月会費 0 円 年会費 0 円	中体連：部 活動

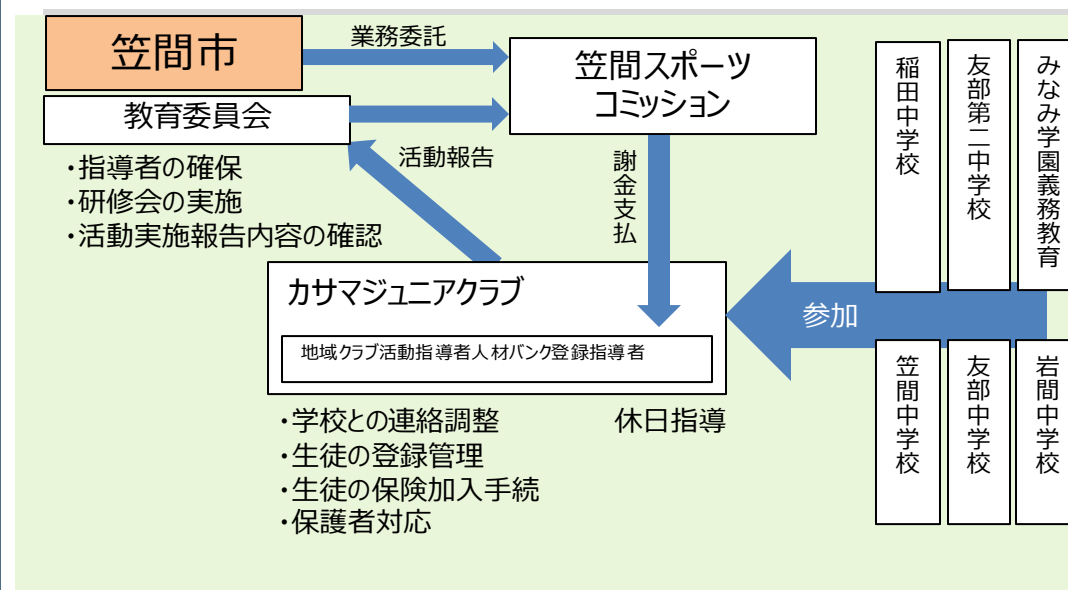
2.実証内容と成果

主な取組例

●カサマジュニアクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	ゴルフ、剣道
運営団体名	カサマジュニアクラブ
期間と日数	ゴルフ：5月4日～3月30日 月4程度 剣道：5月25日～3月30日 月4程度
指導者の主な属性	市役所職員・教員再雇用職員
活動場所	穴戸ヒルズカントリークラブ練習場 笠間中学校武道館
主な移動手段	自転車・通学バス・保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	ゴルフ：0円 剣道：0円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者

役割：カサマジュニアクラブの登録及び指導者の登録。指導者、学校との連絡調整を行う

●主任指導者 1名

役割：中学生の技術指導を行う

●運営補助者 1名

役割：出席の確認等を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ・新入生保護者説明
- ・地域部活動移行検討委員会を年4回実施
- ・スポーツ少年団役員会への協力依頼
- ・スポーツ協会理事会への協力依頼（指導者の確保）
- ・競技別地域部活動移行会議の実施

取組の成果

・市内総合体育大会を見学に行ったことで情報が入る。各競技において、部活動地域移行の進み方の違いが見えてきたことから、競技別地域部活動移行会議の必要性を感じた。

・8月から順次13競技の会議を開催。競技によっては、休日の活動が十分可能な部分と時間的に難しい部分とが混在している状況であることが把握できた。また、学校側の反応としては、大会を重視している面が難しさを増しているようである。休日の活動そのものが、他校との練習試合や地方大会への参加について難色を示す教員と保護者がいることが現状の姿である。関係者と直接話し合いを重ねることから多くの課題が見えてきたことが大きな成果と言える。

< 各競技地域部活動移行会議 >

野球 8/17 バレーボール 9/26
陸上 10/8 バasketボール 10/30
ゴルフ 11/6 サッカー 11/19
卓球 11/25 柔道 11/27
ソフトテニス 1/16 剣道 1/21
相撲 1/21

コーディネーターの具体的な動きの実績

・卓球競技指導者マッチング作業（岩間中学校）4/3 ・新入生保護者説明（岩間中学校）4/15 ・笠間市スポーツ少年団役員で協力依頼（カサマジニアクラブのPR）4/11 ・笠間市スポーツ協会事務局長にカサマジニアクラブのPRの協力依頼4/16 ・笠間市校長会においてカサマジニアクラブのPR4/17 ・地域部活動移行第1～4回検討委員会4/30,7/16,10/29,1/30 ・総合型地域スポーツクラブ「Ibaraki community Association」の代表者と部活動移行について協議6/10 ・陸上競技について笠間陸上競技クラブ代表者と協議6/11 ・ソフトボール指導者と協議6/12 ・笠間市校長会において連絡ツール（テトル）使用について協力依頼6/24 ・アストロプラネッツベースボールスクールへの協力依頼6/26 ・野球競技地域部活動移行会議に向けて中体連野球専門部長と協議7/8 ・野球競技地域部活動移行会議に向けて参加者に事前の連絡作業（電話）7/9 ・野球競技地域部活動移行会議依頼文（学務課起案）7/16 各競技地域部活動移行会議 同様に残り12競技行う。・県主催部活動地域移行市町村担当者会議8/9 ・岩間中学校陸上部保護者説明会8/19 ・サッカー協会の役員と連絡調整の為笠間スポーツ協会事務局長に確認10/15 ・県主催部活動地域移行市町村担当者会議10/21 ・再度サッカー協会の役員と連絡調整の為笠間スポーツ協会事務局長に確認10/22 ・笠間市運動公園管理者（NPO法人日本スポーツ振興協会）への協力依頼 10/23 ・みなみ学園義務教育学校保護者会11/8 ・笠間市スポーツ協会柔道部理事会で協力依頼11/9 ・静岡県藤岡市来庁対応11/12 ・稲田中学校2・1年生の保護者説明会11/15、22 ・友部第二中学校保護者説明会12/4 ・岩間中学校保護者説明会12/4 ・市内中学校保護者説明会12/17 ・笠間スポーツ協会各競技部代表者会議1/23

今後の課題と対応方針

- ・休日の指導者確保（各中学生の指導を担当する指導者）
- ・笠間スポーツ協会及び笠間スポーツ少年団の指導者への協力依頼を行うことで、現在の各活動に中学生を加えた。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項	人材バンクの人数	登録者属性	種目	資格有無
- 指導者の属性を見ると、教員（再任用含）が57%（25/44）であり、43%が地域の競技専門指導者である。 - 有資格者が少数であることから教職員以外の指導者について学校側（校長、教頭、部活動顧問）との面談を実施。学校で検討後採用。	44名	- 市役所職員 - 会社員 - 教員 - 消防署職員 - 定年退職者	- 野球 ・サッカー ・剣道 - バスケットボール ・柔道 - バレーボール ・相撲 - ソフトテニス ・卓球 - ソフトボール ・ゴルフ - 陸上	- 有資格保持者 4人 - 無資格者 40人
	人材バンクの年齢構成 20代 10名 30代 11名 40代 7名 50代 8名 60代以上 8名			

取組の成果

- 指導者として採用するに当たって、初めて中学生の指導に当たる方と学校長、保護者、部員とのマッチング作業を実施し、採用について総合的に判断して指導者として決定している。
- 専門的な指導を受けることのできた中学生は、各種目において技術力が向上し、大会等ではその力を発揮していることを、実際に市内大会を見学に行つて確認した。専門の指導者から指導を受けた中学生は、「動きに無駄な動きが少なくなってきた。」と話している。
- 中学生に指導できる地域人材の掘り起こしによる新たな指導者の確保に向け取り組んできたが十分な指導者の確保には至っていない。
- 指導者確保に向けた方法の再検討が組織的に展開できる体制の整備が急務である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

- ・教育長講話
競技の専門家として中学生に指導し、競技の良さを伝えてほしい。
- ・部活動総括コーディネーターからクラブ活動について
コンプライアンス研修、施設の管理等について
- ・笠間市消防署員から普通救命講習
応急手当と救命処置
心肺蘇生法(主に成人を対象)、
AEDの取り扱い
異物除去
大出血時の止血法

指導者研修の参加実績

- ・開催日： 3月26日・12月25日
- ・開催回数： 2回
- ・参加人数： 18人
- ・学校関係者については、学校にて(コンプライアンス研修・普通救命講習)実施しているため、今年度の参加は見送ることにした。

受講者の声

- ・市役所職員として採用2年未満の2名からは中学生に指導する際に配慮する点を学べたことは、これから技術面や精神面などの指導に役立させたいと思う。と話してくれた。
- ・上記以外の指導者については、専門競技指導者講習会や勤務先でコンプライアンス研修を定期的に受講している。また、普通救命講習については、勤務先(会社、事業所、中学校等)で定期的に受講している。

今後の課題と対応方針

- ・学校の教員が部活動を指導するためにカサマジニアクラブに登録しているが、異動等により継続した指導が難しくなることも考えられる。継続的に地域クラブを運営するためには、地域の指導者の発掘が重要である。また、地域のクラブとして活動するための基盤を市スポーツ協会、市スポーツ少年団の指導者と協議していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- ・一般社団法人笠間スポーツコミッション
- ・笠間市スポーツ協会
- ・笠間市スポーツ少年団
- ・BACK BONE 合同会社
- ・カントリークラブザ・レイクス
- ・宍戸ヒルズカントリークラブ
- ・茨城アストロプラネッツベースボールスクール
- ・Ibaraki community Association
(総合型地域スポーツクラブ)
- ・NPO日本スポーツ振興協会
(笠間市総合公園指定管理者)
- ・上記団体と協議を重ね、休日の部活動をクラブ化できるよう推進。

取組の成果

- ・カサマジニアクラブ設立と同時に地域クラブ活動指導者人材バンクも設置するため、指導者謝金の支払い業務を一般社団法人笠間スポーツコミッションに委託した。
- ・競技別地域部活動移行会議を市競技団体の長、市スポーツ少年団指導者、市中学校体育連盟競技部長、各学校部活動顧問教員の参加のもと開催した。競技によっては、市スポーツ少年団の中学生の受け入れや団体として休日の練習の指導を行っていただける競技等が現れてきた。
- ・笠間市スポーツ協会事務局へ定期的（火曜日の午前中）に行き部活動地域移行に関する情報を伝え、今後の対応について協議してきた。中学校の部活動（13競技）の代表者2名による協議に進めることができたこと。
- ・笠間市総合公園指定管理者のNPO日本スポーツ振興協会では、中学生の活動に必要な施設について、利用しやすいよう配慮をいただけることになった。

バス等の運行実績

- ・実績なし
- ・今後バス等の運行を検討

今後の課題と対応方針

- ・カサマジニアクラブに参加するためには、中学生個人の自転車、徒歩で参加している。（練習会場は基本的に、自分の学校で行っている。）
- ・今後、生徒数の減少により単独での活動が困難になり市内の何校かが合同で実施する場合、バス等の運行が必要になることも想定し対応策を考えることになる。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

- ・笠間市総合公園指定管理者と会場使用に関する打合せ。
- ・市内の業者と部員の送迎について、協議する。

各自治体の役割

- ・登下校に活用している送迎のバスを有効活用できるよう検討。

移動手段

- ・自転車、徒歩、保護者の送迎。

事務局運営の方法

- ・連絡調整、業者との交渉等について学務課の協力を得て進めている。

取組の成果

- ・NPO日本スポーツ振興協会（笠間市総合公園指定管理者）との協議を繰り返し、ソフトテニス競技について、中学生の所属しているクラブに対して、土曜日・日曜日の利用においてできる範囲での協力をしてくれるということまで進められた。
- ・笠間市内小中学校の登下校を担当しているレンタカー会社に部活動地域移行に向けた取組として、中学生の送迎を依頼したが、方法、送迎料金等の検討をしてくれるということまで進められた。

今後の課題と対応方針

- ・会場使用料金や送迎バス等の費用について保護者の費用負担軽減。
- ・企業の協力を得るための方法の検討。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

- ・カサマジニアクラブ設立、運営
- ・指導者の確保（運動部活動55部の指導者）
 野球部 5 部活動を 1 チームにする(指導者 2 名)
 サッカー部 2 部（指導者 3 名）
 男子バスケットボール部 1 部（指導者 2 名）
 女子バスケットボール部 1 部（指導者 2 名）
 男子バレーボール、部 1 部（指導者 1 名）
 女子バレーボール、部 2 部（指導者 2 名）
 男子ソフトテニス部 2 部（指導者 2 名）
 女子ソフトテニス部 1 部（指導者 1 名）
 男子卓球部 4 部（指導者 5 名）
 男女卓球部 1 部（指導者 2 名）
 女子卓球部 3 部（指導者 4 名）
 女子ソフトボール部 1 部（指導者 1 名）
 剣道部 4 部（指導者 4 名）
 柔道部 3 部（指導者 2 名）
 陸上部 2 部（指導者 5 名）
 相撲部 1 部（指導者 3 名）
 ゴルフ部 1 部（指導者 3 名）

活動の詳細			
参加人数	366 人	指導者数	44 人
属性	教育委員会直営 カサマジニアクラブ		
具体的な内容	・カサマジニアクラブを教育委員会直営のクラブとして設置 ・地域クラブ活動指導者人材バンクを設置 ・中学生の登録受付、管理、スポーツ安全保険加入 ・指導者の登録受付、管理、学校とのマッチング作業 ・指導における安全管理（研修会の開催）		
生徒の声	● 専門的な指導が受けられることに感謝している ● 動作がスムーズになり競技力も向上した。 ● 自分の身体を自由に動かせることに感動した。（時間は半年かかった） ● 競技に対するやる気が高まってきた。		
関係者の声	● 令和8年度から自主運営できるようにするためには人的不足で困難である。保護者に協力を求めても快諾はいただけない。 ● クラブ運営に必要な会計処理や指導者への謝金の支払い手続きなど経験の無い者には困難である。 ● 中学生への専門的な指導は行えるが、運営までは考えていない。 ● 会場までの送迎が大変である。バス等の支援があるとありがたい。受益者負担では参加している中学生の人数が少ないため経済的負担が大きい。		
運営経費	委託費 14,98,857円 ・指導者謝金 ・指導者スポーツ安全保険料 ・その他諸経費 運営費 ・コーディネーター人件費、賃金 ・中学生の保険料 ・雑役務費		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

- ・55の運動部を休日に地域で指導できる体制を目指してカサマジュニアクラブを設置した。年度初めは、14人の指導者で7部活動の指導からスタートした。2月の時点で指導者44名になり部活の数も27部活動に増加した。
- ・数年前から部活動指導員制度も活用し、本年度は11部活動で休日の練習を地域の指導者にお願いしている。
- ・カサマジュニアクラブと部活動指導員による休日の活動は、32部活動になり、残り23部活動まで進めることができた。

今後の課題と対応方針

- ・各競技の指導者の確保
- ・中学生に指導できる地域人材の掘り起こしによる新たな指導者の確保に向け取り組んでいく。また、現在、小学生対象にスポーツ少年団で指導をしている方へ再度協力依頼をする。

	笠間中	稲田中	友部中	友部二中	岩間中	みなみ学園
野球	部活動指導員 ジュニア クラブ		部活動指導員			
サッカー	指導員 ジュニア クラブ	ジュニア クラブ				
男子バスケット	ジュニア クラブ		部活動指導員			
女子バスケット	ジュニア クラブ					部活動指導員
男子バレーボール			ジュニア クラブ			
女子バレーボール	ジュニア クラブ		ジュニア クラブ			
男子ソフトテニス	ジュニア クラブ	ジュニア クラブ				
女子ソフトテニス	ジュニア クラブ					
男子卓球	ジュニア クラブ			ジュニア クラブ	ジュニア クラブ	ジュニア クラブ
女子卓球	ジュニア クラブ			ジュニア クラブ	ジュニア クラブ	
女子ソフトボール			ジュニア クラブ			
剣道	ジュニア クラブ		ジュニア クラブ			
柔道	部活動指導員 ジュニア クラブ		部活動指導員 ジュニア クラブ	部活動指導員 ジュニア クラブ		
陸上	ジュニア クラブ		部活動指導員			
相撲			ジュニア クラブ			
弓道		部活動指導員				
ゴルフ						部活動指導員 ジュニア クラブ

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

- ・指導者のスポーツ安全保険料
1,850円×48人分＝88,800円
- ・中学生のスポーツ安全保険料
800円×1,000人分＝800,000円
- ・困難世帯の参加費用負担の支援
- ・指導者謝金
48名×1,600/h×3h×52週
＝11,980,800円

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

- ・現在参加費については、徴収していない。
今後、受益者負担として徴収していく。

■ランニングコストの分析

- ・現在参加費については、徴収していない。
今後、受益者負担として徴収していく。

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

- ・110名指導員の保険料 1,850円×110人分＝203,500円
- ・55部活動の指導者として、110名の謝金27,456,000円
- ・指導者に係る費用 203,500円＋27,456,000円＝27,659,500円
- ・運動部員数1,300人
27,659,500円÷1,300人＝21,277円(一人分負担額) 一月1,773円
- ・227円は、クラブ運営費として徴収
- ・受益者負担額 1月 2,000円(保険料800円別)

収支バランス

- ・収支バランスは取れていない。
- ・収入としての受益者負担は0であるが、支出としての中学生や指導者の保険料及び指導者謝金を市が負担している状況である。

今後の課題と対応方針

- ・保険料、月会費、活動費の額を検討する。
- ・保護者の受益者負担軽減について検討する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

- ・市内小・中学校施設の休日における、地域スポーツクラブ活動の学校施設の有効活用
- ・休日のクラブ活動に向け優先的な練習会場の確保を検討
- ・本年度実施校において、休日の各部活動との調整を実施

取組の成果

- ・市内中学校同士の合同練習等実施にあたり、調整を行うことで笠間中学校内の各部の協力が得られ中学校の体育館で実施することができた。
- ・各中学校の部活動地域移行を進める中で、地域のクラブが中学生を指導するために使用する学校施設の借用について、管理職に説明を行い快諾をいただけた。
- ・市内中学校で一番部活動の地域移行（地域クラブ）が進んでいる笠間中学校を例に挙げると、教員の残業時間が令和5年度全体平均と令和6年度の全体平均を比較すると、約14時間削減した。

今後の課題と対応方針

- ・地域のクラブ活動が今まで以上に休日に集中することになると学校独自の活動に対しての、調整を学校と関係団体で綿密に行わなければならないことが想定される。
- ・定期的な会場活用の調整会議の設置。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

- ・笠間市内に拠点を置くプロスポーツ団体への協力依頼を行った。
①茨城アストロプラネッツ「アストロプラネッツベースボールスクール」
②「茨城アストロプラネッツU-15女子ソフトボールクラブチーム」
- ③BACK BONE 合同会社「3人制プロバスケットボールクラブ」

取組の成果

- ・アストロプラネッツベースボールスクールから事業開催について「動作解析体験イベント」の提案
- ・市内中学校に通う生徒が茨城アストロプラネッツU-15女子ソフトボールクラブチームへ所属した。県中学校体育大会への参加登録も済ませている。
- ・3人制プロバスケットボールクラブから岩間中学校と友部第二中学校を会場に3人制バスケットボール競技のデモンストレーションを行えるよう準備できるとの返事をいただいた。

今後の課題と対応方針

- ・アストロプラネッツベースボールスクールへ市内の中学生もスキルアップを目指して指導を受けている。今後、中学生の軟式野球チーム設立が地域としては期待している状況である。
- ・3人制プロバスケットボールクラブの教室に、練習会場の近くに住む市内中学生がスキルアップを目指して指導を受けている。今後、中学生のクラブチーム設立が地域としては期待している状況である。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

・本市の目標である「令和7年度末までに休日（土・日）の学校部活動すべてを完全に地域移行する」として、市スポーツ協会をはじめ各種スポーツ関係団体への協力依頼を重ね指導者の確保や地域クラブとして自主運営のできる団体構築を目指し、カサマジニアクラブの設置と地域クラブ活動指導者人材バンクを設置し、土曜日、日曜日の学校部活動を地域の指導者から指導を受けられるようになってきた。

市内中学校・義務教育学校の運動部については、55部活動に対して27の学校部活動が地域クラブとして活動している。また、地域移行に向けて導入した部活動指導員(5部)の活動もあり残り23部活動について、今後地域での活動に移行していけるよう指導者の確保に力を入れていく。

●成果の評価

- ・55運動部活動の休日展開に協力いただいた指導者44名。当初、事業計画時には48名の指導者を予定していた。指導者の確保については92%である。
- ・地域のクラブに所属している指導者の協力を得られたこと。クラブとは別に部活動の指導を行っていただいている。
- ・少数ではあるが、スポーツ少年団から中学校に進学しスポーツ少年団の競技と同じ部活動に入部した時点でスポーツ少年団からは離れていたが、その生徒の為ならとスポーツ少年団で休日指導をしていただけるようになった。
- ・本市においては、中学校の教員147名に対し27名の者が地域の指導者として活躍していただいている。(18.4%)

●今後に向けて

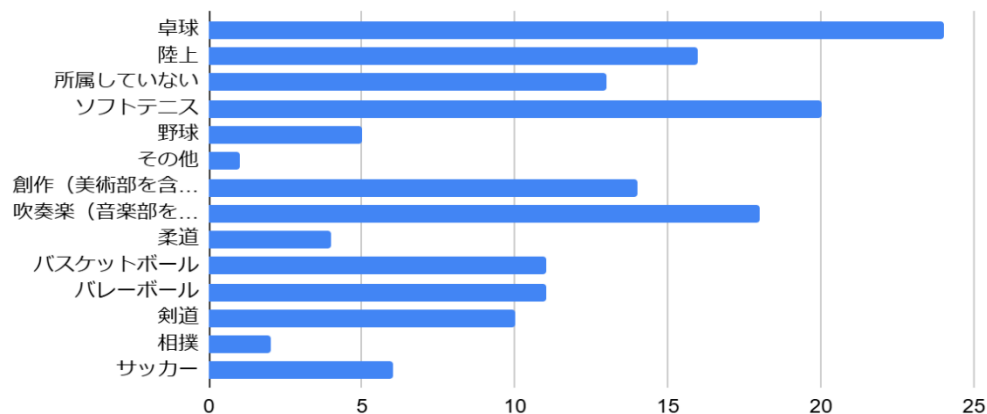
- ・生徒一人一人がニーズに応じたスポーツ・芸術・文化活動を楽しむことができる環境を整備することを目指し、カサマジニアクラブを基盤として、生徒の自主的・自発的な活動を支える運営団体の構築。

2.実証内容と成果②

アンケート結果

●アンケート結果

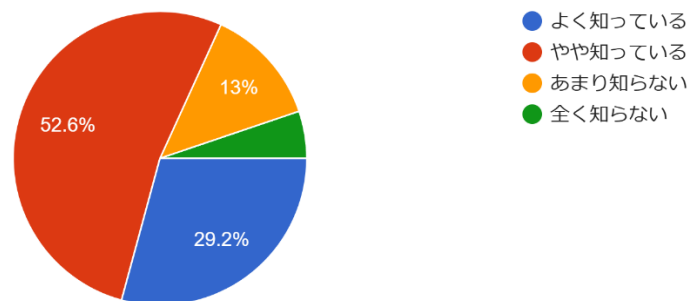
問 1 今所属している学校部活動を選択してください



質問 2 質問 1 で「その他」を選んだ場合、競技名を教えてください。

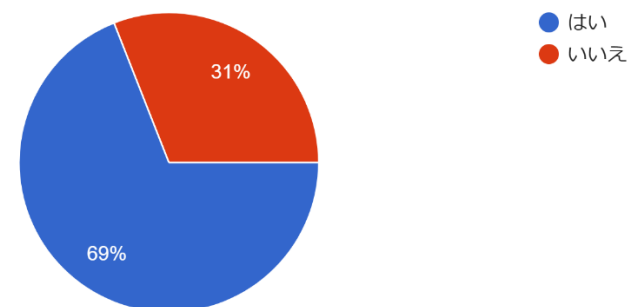
1500メートル
短距離
水泳
空手
ボルダリング

Q質問 3 令和 7 年度末に向けて、学校部活動は土曜・日曜の活動を、学校から地域のクラブ活動に代わっていくことについて知っていますか。（「部活動地域移行」とも言われています）



＜令和 8 年 4 月からの土曜日・日曜日の学校部活動は行わない方向で進められております。もし、土曜日・日曜日の学校部活動が行われなくなると仮定して以下の質問に回答してください。＞

質問 4 学習塾やスポーツ活動、習い事などに通ってますか

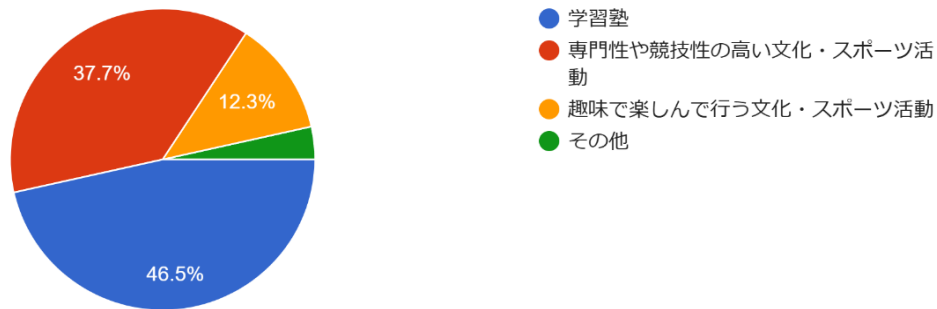


2.実証内容と成果②

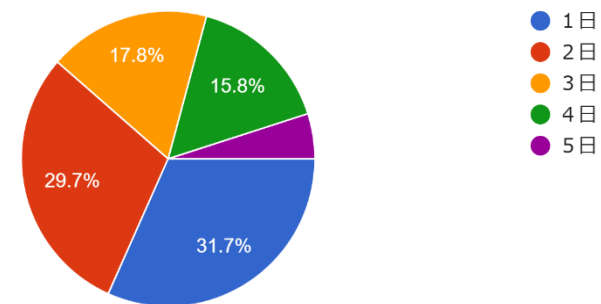
アンケート結果

●アンケート結果

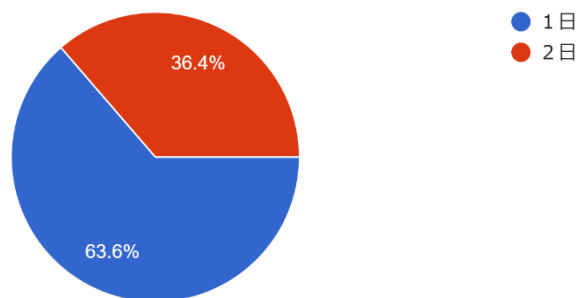
質問5 どんな習い事をしていますか



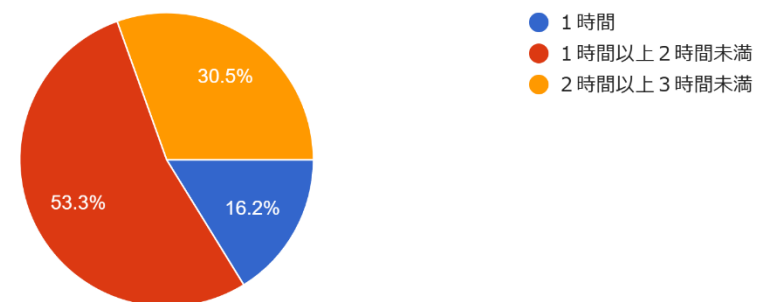
質問6 学校以外の習い事（学習塾・地域クラブ等）に平日は何日通っていますか



質問7 学校以外の習い事（学習塾・地域クラブ等）に休日は何日通っていますか



質問8 学校以外の習い事（学習塾・地域クラブ等）の平日1回の活動は何時間ですか

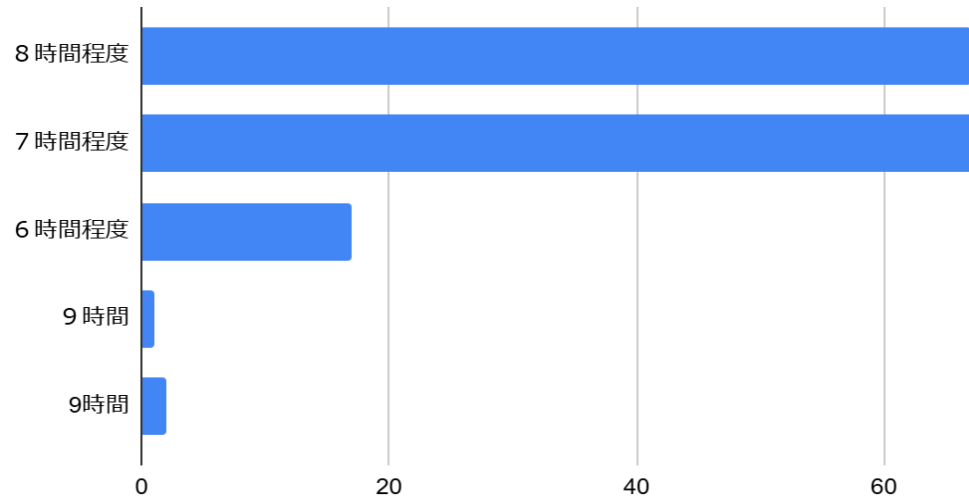


2.実証内容と成果②

アンケート結果

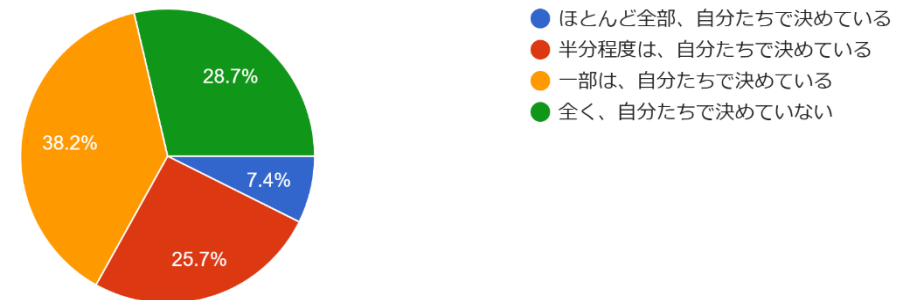
●アンケート結果

質問9 1日の睡眠時間は何時間ですか



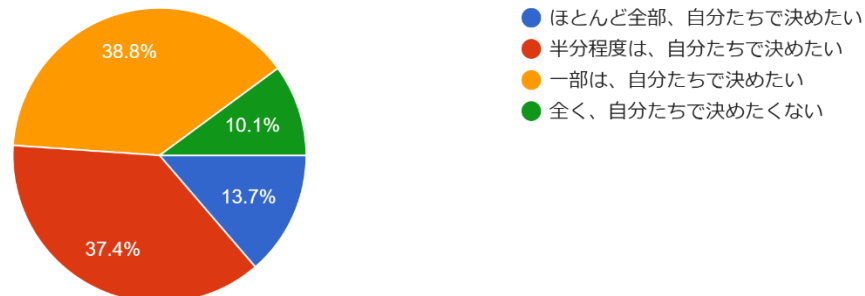
【部活動に所属している人のみ回答】 【部活動に所属していない人は質問12へ】

質問10 部活動に所属している方に伺います。現在、練習の時間や内容、試合のメンバーなど、自分たち（生徒同士）で決めていることはありますか

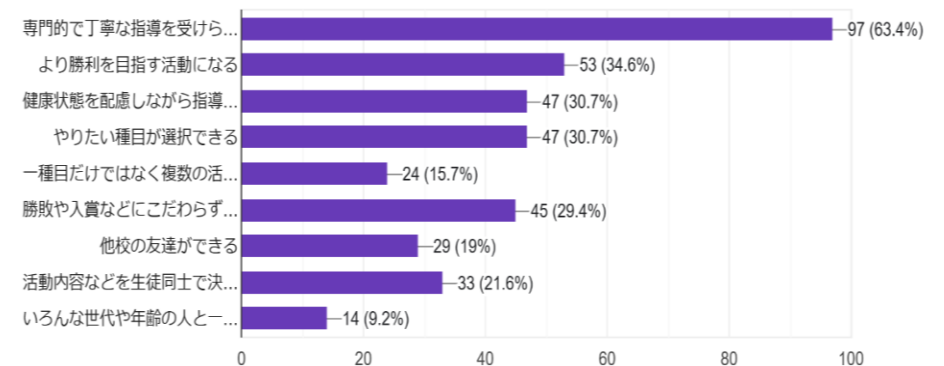


【部活動に所属している人のみ回答】

質問11 部活動に所属している方に伺います。練習時間や内容、試合のメンバーなど部活動において自分たち（生徒同士）で決めたいと思いますか



質問12 どんな文化・スポーツ活動なら、より満足できるものになると思いますか （最大3つまで回答可能）

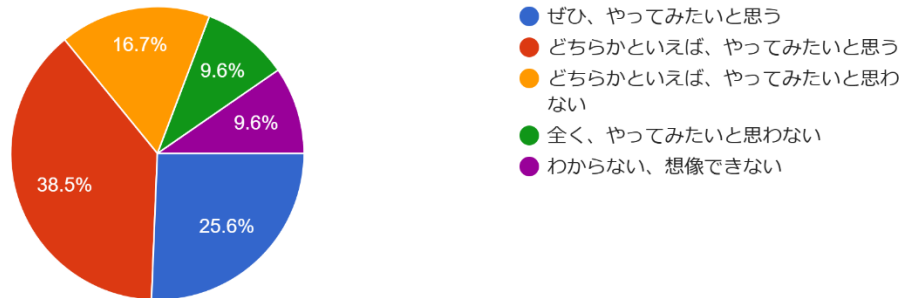


2.実証内容と成果②

アンケート結果

●アンケート結果

質問13 笠間市内で、別の学校の生徒と文化・スポーツ活動を一緒に活動したい
と思いますか。



<全国調査との比較>

「子どもたちの部活動における現状について」

1 部活動の地域移行に関する子どもの認知度について

(よく知っている・やや知っていると回答) 笠間市 = 81.7% 全国 = 28.3%

2 現在の部活動等における活動実態 (時間・日数) について

(運動部 + 学校以外の習い事の年間活動時間) 笠間市 = 828 h/年 全国 = 744 h/年

3 子どもたちの部活動に対する主体性について

(自己決定の意志がある) 笠間市 = 71.1% 全国 = 89.3%

4 子どもたちの文化・スポーツ活動に対するニーズについて

(より勝利を目指したい生徒) 笠間市 = 38% 全国 = 27%

(より気楽に楽しみたい生徒) 笠間市 = 30.6% 全国 = 31%

5 子どもたちの地域活動への意欲について

(地域で活動してみたい生徒) 笠間市 = 63.7% 全国 = 70.5%

〔全国のデータは、「イマ・チャレ」第8号より〕

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



指導者研修会の様子（普通救命講習180分）



指導者研修会の様子（普通救命講習180分）



指導者研修会の様子（普通救命講習180分）



指導者研修会の様子（普通救命講習180分）

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



稲田中学校 テニスコートでのソフトテニス練習風景



稲田中学校 テニスコートでのソフトテニス練習風景



稲田中学校 グラウンドでのサッカー練習風景



稲田中学校 グラウンドでのサッカー練習風景

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



みなみ学園義務教育学校 穴戸ヒルズカントリークラブでのゴルフ練習風景



みなみ学園義務教育学校 穴戸ヒルズカントリークラブでのゴルフ練習風景



笠間中学校 武道館での剣道練習風景



笠間中学校 武道館での剣道練習風景

2.実証内容と成果④

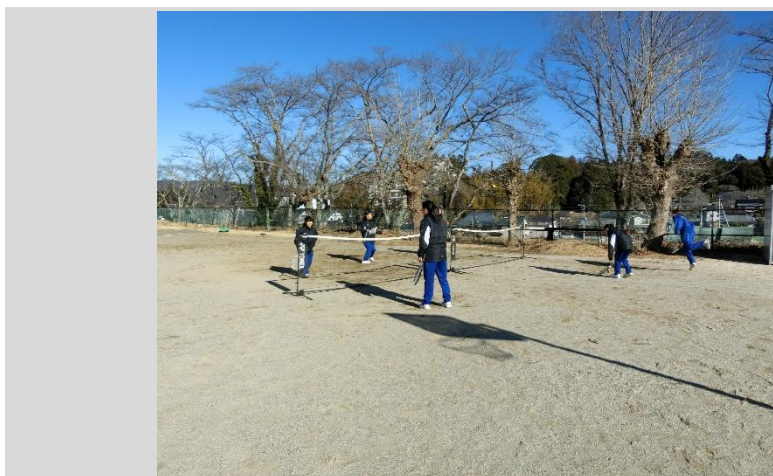
参考資料（活動写真）



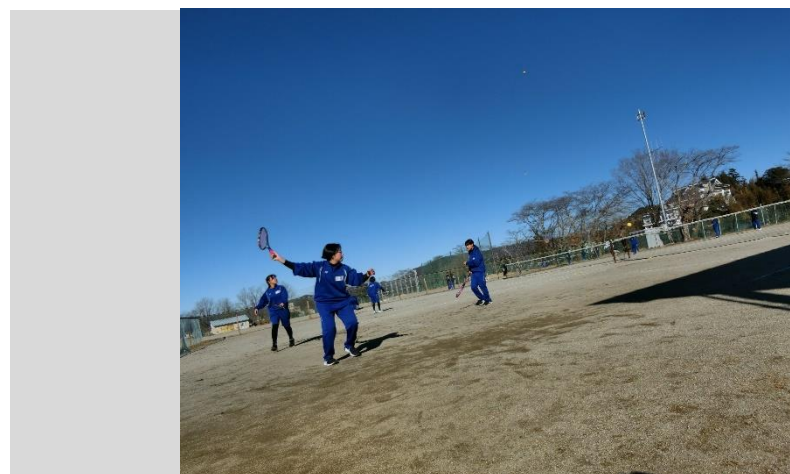
笠間中学校 武道館での柔道練習風景



笠間中学校 武道館での柔道練習風景



笠間中学校 テニスコートでの女子ソフトテニス練習風景



笠間中学校 テニスコートでの女子ソフトテニス練習風景

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



笠間中学校 グラウンドでの野球練習風景



笠間中学校 グラウンドでの野球練習風景



笠間中学校 テニスコートでの男子ソフトテニス練習風景



笠間中学校 テニスコートでの男子ソフトテニス練習風景

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



笠間中学校 グラウンドでのサッカー練習風景



笠間中学校 グラウンドでのサッカー練習風景



笠間中学校 グラウンドでの陸上練習風景



笠間中学校 グラウンドでの陸上練習風景

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



笠間中学校 体育館でのバレーボール練習風景



笠間中学校 体育館での女子バスケットボール練習風景



笠間中学校 体育館での男子バスケットボール練習風景



笠間中学校 体育館での男子バスケットボール練習風景

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



笠間中学校 体育館での男子卓球練習風景



笠間中学校 体育館での男子卓球練習風景



笠間中学校 体育館での女子卓球練習風景



笠間中学校 体育館での女子卓球練習風景

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



友部中学校 武道館での剣道練習風景



友部中学校 武道館での剣道練習風景



友部中学校 相撲場での相撲練習風景



友部中学校 相撲場での相撲練習風景

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



友部第二中学校 体育館での男子卓球練習風景



友部第二中学校 体育館での女子卓球練習風景



岩間中学校 卓球場での女子卓球練習風景



岩間中学校 卓球場での女子卓球練習風景

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和 6 年

検討委員会実施

令和 6 年

競技別地域部活動移行会議の実施

検討委員会

- 市中体連会長
市校長会長
各校体育主任・部活動主任
教育委員会学務課指導室長
笠間スポーツコミッション
教育委員会生涯学習課
- 経過
 - ・4月30日 第1回
 - ・7月16日 第2回
 - ・10月29日 第3回
 - ・1月30日 第4回
- 実施にあたって生じた課題
 - ・競技団体毎に話し合いをもつことは重要である
 - ・コーディネーター 1 人では進めずらいのではないか

競技別地域部活動移行会議

- 各競技団体の会長
市中学校体育連盟競技部長
スポーツ少年団代表者
地域クラブの代表者
各学校の部活動顧問
茨城県教育庁学校教育部保健体育課
競技スポーツ部活動地域移行担当指導主事
市教育委員会教育長
部活動総括コーディネーター
- 経過
 - ・野球競技 8月17日
 - ・バレーボール競技 9月26日
 - ・陸上競技 10月8日
 - ・バスケットボール 10月30日
 - ・ゴルフ競技 11月6日
 - ・サッカー競技 11月19日

● 経過

- ・卓球競技 11月25日
- ・柔道競技 11月27日
- ・ソフトテニス競技 1月16日
- ・相撲競技 1月21日
- ・剣道競技 1月21日

● 実施にあたって生じた課題

- ・参加者への連絡先を確認するための作業に時間が必要であったこと
- ・連絡先に連絡しても通じない状況があったこと
- ・市内のクラブを掌握している組織はなく、スポーツ協会、スポーツ少年団等、組織的に活動している団体に関係していない民間クラブへの連絡の難しさを感じた。

● 実施内容、工夫した点 等

- 競技別の会議を開催すること

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和6年

受け皿団体や指導者の選定

●笠間市スポーツ少年団・地域クラブ

・競技別地域部活動移行会議開催

（受け皿として活動頂けるか確認）団体に加入していただければ、休日の練習も可能になる

●協力団体

・野球部 ①baseball club TOMOBE U-15 ②笠間クラブ

・バスケットボール部 ①J.B.L.A.C.K.S ②友部イーグルスバスケットボールU-15 ③BACK BONE 合同会社

・女子バレーボール部 ①たんぽぽバレーボールスポーツ少年団 ②茨城球技クラブ

③Ibaraki community Association（総合型スポーツクラブ）

・ソフトテニス部 ①ソフトテニス友部クラブJH ②ソフトテニスクラブマイルド ③ソフトテニス友部ジュニアクラブ

・卓球部 ①水戸葵ジュニアクラブ ②岩間卓球スポーツ少年団

・剣道部 ①洗心館 ②友部剣友会 ③直心館飯島道場 ④岩間剣友会

・柔道部 ①友部柔道スポーツ少年団 ②一期柔道クラブ ③笠間柔道スポーツ少年団

・相撲部 ①友部相撲スポーツ少年団 ②カサマジニア相撲クラブ

・弓道部 ①友部弓道クラブ

・ソフトボール部 ①茨城アストロプラネッツU-15女子ソフトボールチーム

・サッカー部 ①フェリスジュニアユース

・陸上部 ①笠間陸上競技クラブ

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和6年

カサマジュニアクラブ活動の開始

● カサマジュニアクラブ

- ①みなみゴルフクラブ ②友部男子バレーボールクラブ ③友部相撲クラブ ④友部二男子卓球クラブ ⑤友部二女子卓球クラブ
⑥笠間剣道クラブ ⑦岩間男子卓球クラブ ⑧岩間女子卓球クラブ ⑨笠間女子バレーボールクラブ ⑩友部女子バレーボールクラブ
⑪笠間女子卓球クラブ ⑫笠間陸上クラブ ⑬笠間男子卓球クラブ ⑭友部女子ソフトボールクラブ ⑮笠間女子ソフトテニスクラブ
⑯笠間男子バスケットボールクラブ ⑰笠間女子バスケットボールクラブ ⑱笠間男子ソフトテニスクラブ ⑲笠間サッカークラブ
⑳笠間野球クラブ ㉑稲田男子ソフトテニスクラブ ㉒友部剣道クラブ ㉓稲田サッカークラブ ㉔友部二柔道クラブ ㉕笠間柔道クラブ
㉖友部柔道クラブ ㉗みなみ卓球クラブ

● 経過

- ・中学生の登録については、令和5年2月5日に市内中学校・義務教育学校に連絡
- ・生徒個人のタブレットを使用し、二次元コードを読み取り登録
令和5年2月25日から登録スタート
中学生のスポーツ安全保険加入4/25=29名・5/9=18名・5/24=154名・6/6=69名・7/4=22名・8/8=15名・9/5=4名・
10/3=5名・11/7=21名・12/5=7名・1/9=21名・2/6=2名（合計367名）

● 実施にあたって生じた課題

- ・市内を1つ又は2つに分けてクラブを実施した場合、会場までの送迎が困難である。・カサマジュニアクラブの指導体制では、1クラブに対し1名の指導者で対応するようになっている。緊急時の対応に不安がある。
- ・休日の大会等への参加ができないことは困る。

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和6年

生徒、保護者への説明

●市内中学校5校・義務教育学校1校

- ・カサマジュニアクラブについて説明
- ・令和6,7年度新入生保護者説明

●経過

- ・令和6年度新入生保護者説明会 4/10,
- ・卓球部保護者説明会 4/15
- ・各学校保護者説明会 5/1, 9, 11/8, 15, 22, 12/4, 10
- ・陸上部保護者説明会 8/19
- ・市内保護者説明会 12/17
- ・令和7年度新入生保護者説明会 1/15, 24, 31

●実施にあたっての生じた課題

- ・保護者説明会の期日の決定に時間がかかった。
- ・各学校によって、部活動地域移行に関しての温度差があり、同一歩調とはならなかった。
- ・学校を会場にした説明会を実施したが、一般市民向けの説明会を公民館等で実施すべきだったかもしれない。

●実施内容、工夫した点

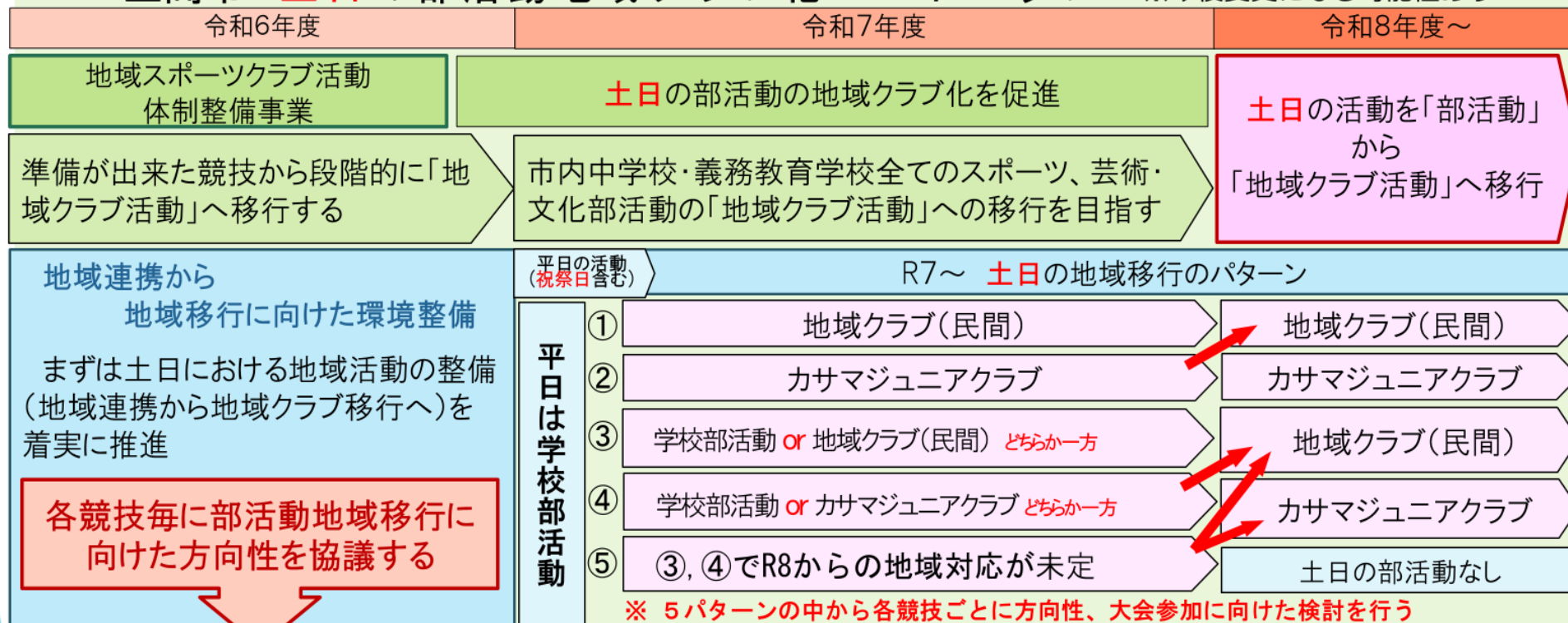
- ・頻繁に各中学校、義務教育学校に出向き、生徒及び保護者説明会の必要性を伝えてきた。
- ・今後生じてくる「受益者負担」について、丁寧に説明する工夫をしてきた。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

笠間市 土日 の部活動地域クラブ化ロードマップ

※今後変更になる可能性あり



まずは、**土日**の「学校部活動」から「地域クラブ活動」への**移行完了**を目指す。

【大会参加に向けた検討も必要】

※平日の移行まで完了できれば = 完全地域移行が完了

- ① 中体連主催の大会に地域クラブとして参加する場合は、学校からではなく地域クラブとして中体連に登録が必要。(二重登録は不可)
- ② 合同チームの場合、参加は1チームのみ。(〇〇クラブA, 〇〇クラブBのように複数の参加はできない)

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

茨城県 取手市

自治体名：茨城県取手市

担当課名：取手教育委員会スポーツ振興課

電話番号：0297-82-7200

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	69.94 km ²
人口	103,581 人
公立中学校数	6 校
公立中学校生徒数	2,044 人
部活動数	79 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	取手市部活動地域移行推進協議会設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

取手市には、市立 6 中学校に 79 の部活動があり、1,649 名の生徒が日々活動している。その中には、毎年のように関東大会や全国大会に出場する部活動もあり、部活動が地域の伝統・文化として根付いている面もある。部活動の地域移行にあたり、それが**子供たちを主役とした本市にあった事業となるように**、国及び茨城県のガイドラインに従い、**各中学校にある部活動の良さを生かしながら地域移行を進めていくことになった。**

令和 6 年度の主な取組は、大きく 2 つ、**取手市部活動地域移行推進協議会の開催と、地域クラブ活動のモデル事業の実施**である。取手市部活動地域移行推進協議会は、部活動地域移行の中心的な存在として、取手市スポーツ協会、取手市スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ、取手市中体連、市P連、学識経験者、文化芸術関係団体の代表者に委員を委嘱し、教育委員会も加わって 7 月、10 月、2 月の 3 回開催した。

モデル事業については、令和 6 年度は、5 つの中学校から 11 の部活動が、7 つの地域クラブ活動となって、休日の活動を行った。令和 7 年度は、吹奏楽も含めた 8 種目で 12 の地域クラブ活動を設立し、モデル事業を拡大していく予定である。

部活動地域移行推進協議会やモデル事業を通して課題を精査し、令和 8 年 4 月からの部活動の地域移行に向けて取り組んでいる。

【令和 6 年度 取手市の児童生徒数】

○小学校 14 校、中学校 6 校

・小学 1 年生	588 名
・小学 2 年生	641 名
・小学 3 年生	608 名
・小学 4 年生	650 名
・小学 5 年生	668 名
・小学 6 年生	692 名
・中学 1 年生	636 名
・中学 2 年生	687 名
・中学 3 年生	721 名

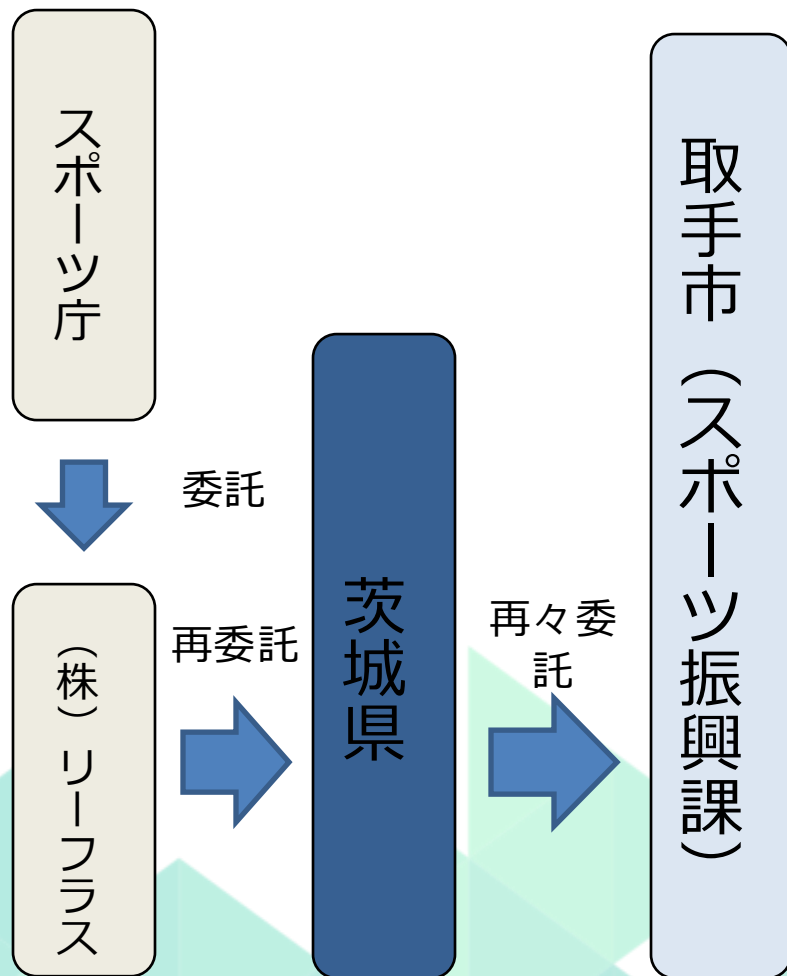
取手市においても、児童生徒数の減少は明らかであり、今後部活動を維持していくのは困難と思われる。

子供たちのために、将来にわたって持続可能なスポーツ・文化活動の環境を整えるためにも、今こそ部活動改革、部活動地域移行に取り組むべきと考え

(出典：令和 6 年度取手市教育委員会資料)

2.実証内容と成果

●取手市の運営体制図



運営団体：取手市部活動地域移行推進協議会
(予定)

- 取手市部活動地域移行推進協議会
 - ・理事長、副理事長、理事
 - ・事務局
- 運営団体の主な役割
 - ・総会、理事会の運営
 - ・指導者への謝礼支払
 - ・会費の徴収
 - ・行政との連携
 - ・指導者と学校との調整
 - ・事務局運営

実施主体：取手市中学生スポーツ・文化クラブ
(予定)

- 取手市中学生スポーツ・文化クラブ
 - ・正会員 (中学生、指導員、保護者)
 - ・準会員 (小学生、高校生)
 - ・賛助会員 (指導、見守り、移動の各ボランティア)
- 実施主体の主な役割
 - ・活動場所、日程等の調整
 - ・休日の活動、大会等への参加
 - ・指導者と保護者の連携
 - ・学校との連携

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）

3 ページ参照

●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

スポーツ振興課

- ・部活動地域移行の主幹
- ・学校、関係部署、各関係団体との連絡調整
- ・取手市部活動地域移行推進協議会の開催
- ・モデル事業の実施
- ・広報活動

◎首長部局

財政課

- ・予算措置、ふるさと納税型クラウドファンディングの検討

魅力発信課

- ・HP、Instagramによる情報発信

年間の事業スケジュール

【令和6年度】

- 4月 地域クラブ活動の指導者対象に、事業方針説明会
指導者研修会を実施
全小中学校の保護者・教職員に対し、部活動地域
移行通信を配付
モデル事業開始
- 5月 モデル事業実施の部活動保護者会において、保護
者に対して事業内容について説明
- 7月 第1回取手市部活動地域移行推進協議会開催
- 8月 市内全教職員の一斉研修会において、取手市の部
活動地域移行向について説明
- 9月 アンケート調査の実施（全中学校生徒・教員・保護
者対象）
- 10月 第2回取手市部活動地域移行推進協議会開催
- 12月 全中学校を訪問し、校長・教頭と次年度に向けて
のヒアリング、意見交換を実施
- 2月 全中学校新入生説明会において、保護者に対して、
事業内容を説明
全小中学校の保護者・教職員に対し、部活動地域
移行通信を配付
第3回取手市部活動地域移行推進協議会開催
モデル事業参加の生徒、保護者、指導者に対して
アンケート調査の実施

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	6 校	実施した地域クラブ総数	7 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		7 クラブ（11 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	11 人	全体の運営スタッフ数	11 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
取手ブレイクベースボールクラブ	スポーツ振興課	軟式野球	月 4～5 回 週 1 回	1 日 4 時間 最大 8 時間	1 年 8 名 2 年 8 名 3 年 12 名	令和 6 年 4 月 1 日 ～令和 7 年 3 月 31 日	取手一中 藤代中 藤代南中	3 人	3 人 (指導者と兼務)	なし	中体連：拠点校 その他：地域クラブ
永山軟式野球クラブ	スポーツ振興課	軟式野球	月 4～5 回 週 1 回	1 日 4 時間 最大 8 時間	1 年 14 名 2 年 5 名 3 年 20 名	令和 6 年 4 月 1 日 ～令和 7 年 3 月 31 日	永山中	1 人	1 人 (指導者と兼務)	なし	中体連：拠点校 その他：地域クラブ
藤代南バレーボールクラブ	スポーツ振興課	バレーボール (女子)	月 4～5 回 週 1 回	1 日 4 時間 最大 8 時間	1 年 10 名 2 年 2 名 3 年 4 名	令和 6 年 4 月 1 日 ～令和 7 年 3 月 31 日	藤代南中	1 人	1 人 (指導者と兼務)	なし	中体連：拠点校 その他：地域クラブ

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
取手二中剣道クラブ	スポーツ振興課	剣道	月 4～5 回 週 1 回	1日4時間 最大8時間	1年5名 2年2名 3年5名	令和6年 4月1日 ～令和7 年3月3 1日	取手二中	1人	1人 (指導者と兼務)	なし	中体連：拠点校 その他：地域クラブ
藤代剣道クラブ	スポーツ振興課	剣道	月 4～5 回 週 1 回	1日4時間 最大8時間	1年7名 2年3名 3年9名	令和6年 4月1日 ～令和7 年3月3 1日	藤代中 藤代南中	2人	2人 (指導者と兼務)	なし	中体連：拠点校 その他：地域クラブ
取手市柔道クラブ	スポーツ振興課	柔道	月 4～5 回 週 1 回	1日4時間 最大8時間	1年14名 2年8名 3年8名	令和6年 4月1日 ～令和7 年3月3 1日	取手一中 藤代中	2人	2人 (指導者と兼務)	なし	中体連：学校ごと その他：学校ごと

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
取手二中空手道クラブ	スポーツ振興課	空手道	月 4～5 回 週 1 回	1日4時間 最大8時間	1年4名 2年7名 3年6名	令和6年 4月1日 ～令和7 年3月3 1日	取手二中	1人	人 (指導者と兼務)	なし	中体連：なし その他：地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

○令和6年11月23日(土)・24日(日)、FUYOUアリーナ藤代・野球場において、取手ブレイブベースボールクラブと永山軟式野球クラブが中心になって、駿台台学園中学校軟式野球部、印西市選抜チーム、オール県南選抜チームを招いて招待試合を行った。

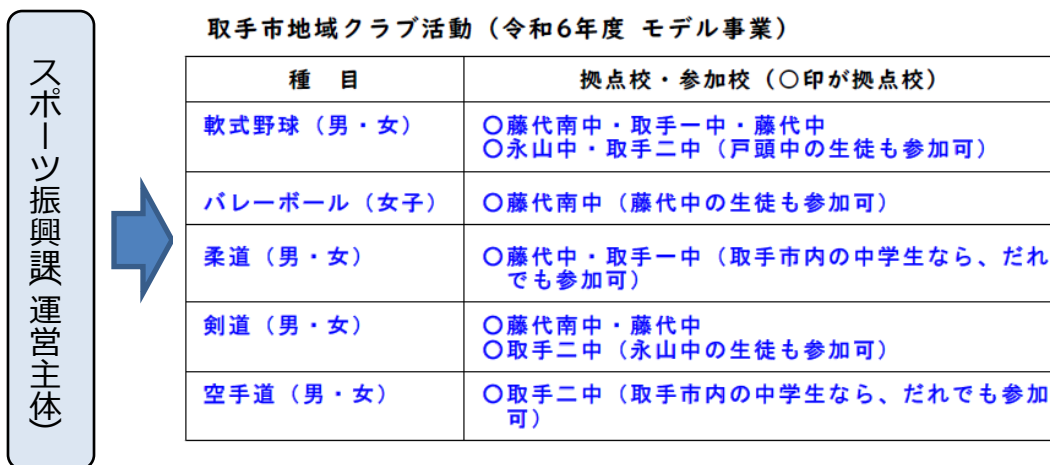
2.実証内容と成果

主な取組例

●取手市地域クラブ活動 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	軟式野球、バレーボール(女子)、柔道 剣道、空手道
運営団体名	取手市教育委員会スポーツ振興課
期間と日数	軟式野球、バレーボール、剣道、空手道 4月1日～3月31日 週1回、月4～5回程度 柔道 9月1日～3月31日 週1回、月4～5回程度
指導者の主な属性	教職員による兼職兼業
活動場所	各中学校等
主な移動手段	自転車、保護者の送迎
1人あたりの参加会費等(年額)	なし
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図(地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●スポーツ振興課

役割：地域クラブ活動運営全般を担当

指導者の任命、出勤管理、謝金の支払い、スポーツ安全保険の加入、消耗品の購入等。

●地域クラブ活動指導者 11名

役割：担当する各クラブの運営を担当

活動計画の作成・実施、生徒・保護者への連絡、大会への参加等

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- 取手市教育委員会スポーツ振興課内にコーディネーターを1名緒配置し、関係部署・各中学校・関係団体との連絡調整を行った。
- 取手市部活動地域移行推進協議会を通して、各団体代表者の意見を聞きながら、運営団体・実施主体設立の準備を進めた。
- モデル事業を通して、地域クラブ活動の運営上の課題の洗い出しを行った。

取組の成果

地域クラブ活動のモデル事業に参加した生徒を対象としたアンケート調査の結果では、回答者の67%が「地域クラブ活動に参加してよかった。どちらかといえばよかった。」と回答している。

同様に、その生徒の保護者を対象にしたアンケート調査でも、100%の保護者が、「参加させてよかった。」「どちらかといえばよかった。」と答えており、取手市の取組としては、一定の成果を上げることができた。

地域クラブ活動に参加している生徒へのアンケートの結果から

- 質問「地域クラブ活動に参加してよかったですか。」
- | | |
|-----------------|----------------|
| ①よかった | 50% |
| ②どちらかといえばよかった | 17% ①と②の生徒が67% |
| ③どちらかといえばよくなかった | 17% |
| ④よくなかった | 16% |
| ⑤わからない | 0% |
- 「よかった」「どちらかといえばよかった」理由はなんですか。
- ・専門的な指導が受けられたから。
 - ・友達関係が、他の学校にも広がったから。
 - ・先輩がやさしくて、楽しいのでよかった。

出典：取手市部活動地域移行推進協議会資料から

コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・取手市部活動地域移行推進協議会の企画運営
- ・各中学校との連絡調整
- ・「取手市部活動地域移行通信」の発行
- ・アンケート調査の原案作成、実施、集計
- ・各中学校長、モデル事業参加者・指導者へのヒアリングの実施

今後の課題と対応方針

令和7年度は、コーディネーターを2名にし、事務局として事業を進めていく予定である。

運営団体としては、現在ある取手市部活動地域移行推進協議会が、地域クラブ活動全体の運営を担当し、実施主体としては、取手市中学生スポーツ・文化クラブを令和7年度中に設立し、令和8年度から稼働していく予定である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

今年度の地域クラブ活動の指導者については、地域人材からは指導者が見つからず、すべて兼職兼業で中学校の先生にお願いした。今後は教職員の働き方改革の視点からも、地域の方々にも指導者になってもらえるよう、地域のスポーツ団体等とも連携していきたい。

取組の成果

中学生を対象としたアンケート調査の結果では、「自分の所属する学校以外の指導者や生徒との人間関係が心配」という生徒が、22.4%いた。保護者のアンケート調査でも、生徒と同様に指導者との人間関係を心配している保護者が11.2%いた。

兼職兼業で現在の部活動顧問が指導に加わることで、生徒や保護者の不安を取り除くことができた。反面、教職員の働き方改革という点では課題が残ったので、地域の人材を活用していくようにしていきたい。

☆質問「部活動地域移行を、進めない方がいいと思う理由はなんですか。」

(生徒の回答から)

- ・やりたいと思う地域クラブ活動がないから 10.6% (-5.4%)
- ・参加費など、お金がかかりそうだから 22.2% (+5.2%)
- ・移動や送迎などに時間がかかりそうだから 26.7% (+3.7%)
- ・自分の学校以外の指導者や生徒との人間関係が心配だから 22.4% (+0.4%)
- ・私立中学校や民間クラブと差がついてしまうから 13.9% (-0.1%)
- ・その他 4.2% (-3.8%)

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

○「取手市部活動地域移行 地域クラブ活動指導者研修会」 内容

- ・取手市地域クラブ活動指導員任命書交付
- ・取手市の中学校部活動地域移行について
- ・指導者としての心構えについて
- ・令和6年度の事業計画について
- ・兼職兼業の手続きについて
- ・指導者登録、計画表・出勤表等の提出について
- ・質疑応答

指導者研修の参加実績

- ・開催日： 令和6年4月5日（金）
- ・開催回数： 1 回
- ・参加人数：指導者 13 名
取手市教育委員会 5 名

受講者の声

- ・取手市の部活動地域移行の取組について、よくわかった。
- ・子供たちのためにがんばりたい。
- ・部員の数も減っているので、これを機会に部員が増えて盛り上がったらいいと思います。
- ・他の学校の生徒ですが、入りたいと言っている生徒がいるのでありがたいです。
- ・手続きが難しそうですが、遅れないようにがんばります。

今後の課題と対応方針

- ・令和6年度は、先生方の負担を考え、年度はじめに1回しか研修会を開催しなかった。指導者の方々の反省や意見を聞くために、年度末にアンケート調査をお願いしているが、研修会という形で直接話を聞く場があっても良かったと思う。
- ・今後は、指導者のレベルアップを目標に、年度3回くらいの研修会を行いたい。内容も、講師を招いての研修会や、指導員の先生方の意見を直接聞いたり、指導者同士の横のつながりを作るような研修会を行っていきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- 5月、モデル事業に参加してくれる部活動の保護者に参加し、取手市の部活動地域移行について説明した。
- 市中学校長会や市PTA連合会の研修会において、本市の取組について説明した。
- 8月、市の教職員の一斉研修会において、本市の取組と今後の予定について説明した。

取組の成果

- これ以外にも、「取手市部活動地域移行通信」を作成し、メールを使って市内の全小中学校の保護者、教職員に3回配付した。
- 市のHPにも、「部活動地域移行」のページを作成し、モデル事業の地域クラブの活動の様子を掲載した。こういった取組を通して、市全体の興味関心を高めることができた。

中学生の皆さんへ 小中学校保護者の皆さんへ 教職員の皆さんへ 令和6年8月

取手市の中学校部活動地域移行について

取手市では、未来を担う子どもたちのスポーツや文化活動環境を整えるため、国や茨城県のガイドラインにしたがって、令和6年度から中学校部活動の地域移行を進めています。具体的には、拠点校方式で地域クラブ活動のモデル事業を行い、休日（土曜日、日曜日、祝日）に活動を行いながら、良い声や指導力を確認し、令和7年度の完全実施に向けてより良い地域クラブ活動を作っていく方針です。

拠点校方式とは、自分の中学校に希望する部活動がない、部員数がそろっていないなどの場合、拠点校を中心とした複数の学校での活動に参加できるというものです。

☆取手市の中学校部活動地域移行（地域クラブ活動）

(1) 目的 地域クラブ活動を通して、
・心身ともにバランスのとれた健全な中学生を育成します。
・小学生や高校生を含めた、未来を担う子どもたちの成長を支援します。
・取手市の生涯スポーツ・文化活動の発展につなげます。

(2) 活動内容 → キーワード：「楽しく」「うまく」
「楽しく」→ 複数の中学校の生徒が参加するので、参加者全員が楽しく、のびのびと活動できる内容にします。
「うまく」→ 子どもたちの生涯活動につながるように、技能の向上を実感できる活動をします。

(3) 活動日及び活動時間 取手市で中学校に属する部活動の活動方針に準じて、
・活動日は、休日（土曜日・日曜日・祝日）とします。活動場所は、市内の中学校等になります。
・活動時間は、通常一日あたり4時間（生徒の移動や準備等の時間を含めて）です。ただし、大会や練習試合などの場合は、一日あたり8時間を原則とします。
・一日の活動時間を超過した場合は、他の日に休養日を振り替えます。

(4) モデル事業 令和6年度は、モデル事業として以下の中学校の部活動が、地域クラブ活動として休日（土曜日、日曜日、祝日）の活動を行っています。

軟式野球（男・女）→ ○取手一中・藤代中・藤代南中
○永山中（戸隠中の生徒も参加できます）

バスケットボール（女子）→ ○永山中・戸隠中 ※新人戦から

バレーボール（女子）→ ○藤代南中（藤代中の生徒も参加できます）

剣道（男・女）→ ○藤代中・藤代南中

空手道（男・女）→ ○取手二中（永山中の生徒も参加できます）

柔道（男・女）→ ○藤代中・取手一中（取手市内の中学生ならだれでも参加できます）
※新人戦から

空手道（男・女）→ ○取手二中（取手市内の中学生ならだれでも参加できます）

(5) 平日の活動は、今までと同じく中学校での部活動となります。平日の地域クラブ活動への参加については、スポーツ振興課にご相談ください。

(6) 令和7年度は、全中学校の部活動の約半数が、休日は地域クラブとして活動をする予定です。

(7) 令和8年度からは、中学校の部活動は平日のみの活動となり、休日の活動はすべて、地域クラブとしての活動になります。

(8) 令和7年度までは、移行期間のためにお金ばかりではありません。令和8年度からは、地域クラブ活動に参加する場合には、参加費やスポーツ安全保険料等がかかります。

○モデル事業の取手市プレイベースクラブ（取手一中・藤代中・藤代南中の生徒）と永山軟式野球クラブ（永山中の生徒）の皆さんです。そろって市郡大会、県南大会と勝ち進み、茨城県選抜軟式野球大会にも出場しました。

○取手二中剣道クラブの皆さんです。永山中の生徒も参加しています。市郡大会、県南大会と勝ち進み、男子団体戦では県大会にも出場しました。

○藤代南中クラブの皆さんです。藤代中と藤代南中の生徒が参加しています。男女そろって県南大会まで勝ち進みました。

○取手二中空手道クラブの皆さんです。取手二中を拠点校として、取手市全域からクラブ員を募集しています。各大会で好成績を納め、関東大会に出場し、全国大会にも出場します。

台茨城県広報紙「ひばり」8月号にも、部活動地域移行に関する記事が載っています。ぜひご覧ください。

【問い合わせ先】 取手市教育委員会スポーツ振興課 電話 0297（82）7200
火曜日～金曜日、8：30～17：00

今後の課題と対応方針

- 市スポーツ協会、スポーツ少年団、総合型地域クラブは代表者が推進協議会に参加しているが、それ以外の各競技団体や地域のスポーツクラブとも連携していく必要がある。
- 取手市にもコミュニティバスがあるが、活用はなかった。今後、生徒の移動手段として活用できないか、関係部署とも検討していきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

○シンポジウムや県の研修会等の機会を捉えて、近隣市町村の部活動地域移行の担当者と情報交換を行った。

取組の成果

○運営団体・実施主体の設立や地域クラブ活動の収入と支出、会費の徴収や指導者への報酬の支払い等、細かな点まで情報交換ができ、事業を進める上で、多いに参考になった。

今後の課題と対応方針

○今後、市町村や県をまたいでの生徒の参加や、その受け入れ等の課題が予想される。さらに、他市町村の担当者との連携を図る必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

取手市では、令和5年度から部活動地域移行のモデル事業を行っている。令和6年度は、5つの中学校から11の部活動が、7つの地域クラブ活動として休日の活動を行った。

他校の生徒が、進んで平日の活動にも参加したり、1つのチームとして大会に参加して、県大会や関東大会、全国大会に出場したクラブがあるなど、全体として充実した活動ができた。

活動の詳細

令和6年度 部活動地域移行モデル事業の進捗状況について①

クラブ	クラブ員数	指導者	実施回数	備考
取手BRAVEベースボールクラブ	27人	3名 兼職兼業	44回	総体で県選抜大会出場 新人大会県南大会出場
永山軟式野球クラブ	20人	1名 兼職兼業	47回	総体で県選抜大会出場
藤代剣道クラブ	17人	2名 兼職兼業	32回	総体で県南大会出場
取手二中剣道クラブ	11人	1名 兼職兼業	46回	総体で県大会出場 新人大会県南大会出場
藤代南バレーボールクラブ	16人	1名 兼職兼業	41回	市郡総体、市郡新人大会に出場
取手二中空手道クラブ	15人	1名 兼職兼業	44回	関東大会、全国大会出場 全国選抜大会出場予定(3月)
取手市柔道クラブ	18人	2名 兼職兼業	14回	10月から開始 新人大会県南大会出場
合 計	124人 (1クラブ平均 17.7人)	11名	268回 (1クラブ月平 均4.7回)	

※実施回数は、4月から12月までの実績(柔道クラブは10月から12月)

出典：令和6年度 第3回取手市部活動地域移行推進協議会資料から

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

生徒だけでなく、地域クラブ活動のモデル事業に参加した生徒の保護者を対象にしたアンケート調査でも、100%の保護者が、「参加させてよかった。」「どちらかといえばよかった。」と答えている。

保護者の目から見ても、モデル事業として充実した活動ができていると考えられる。

○地域クラブ活動に参加させている保護者へのアンケート調査の結果から

☆質問「地域クラブ活動に参加させてよかったですか。」

①よかった	50%
②どちらかといえばよかった	50%
③どちらかといえばよくなかった	0%
④よくなかった	0%
⑤わからない	0%

➡ ①、②の保護者が100%

☆「よかった」「どちらかといえばよかった」理由はなんですか。

- ・子供が専門的な指導を受けられるから。
- ・子供が希望する活動を続けられるから。
- ・子供の友達関係が、学校外にも広がるから。 ※これは全員から回答がありました。
- ・先生たちの働き方改革になる。

☆（自由記述から）

- 他の中学校の方との活動が少々不安でしたが、優しい先輩方とのことで、楽しく活動しています。ありがとうございます。
- 人数が増えて、練習にも活気が出て、試合でも勝てるようになって、子供は喜んでいます。
- はじめは不安でしたが、先生たちにもお世話になり、うまくいっているようで安心しました。

出典：モデル事業に参加している生徒の保護者へのアンケート調査から

今後の課題と対応方針

○取手市では、「改革実行期間」の前期の取組として、現在市内各中学校にある部活動の休日の活動を地域に移行することを目標にしている。しかし、生徒の選択肢を増やすということから、現在取手市内の中学校の部活動にはない、陸上競技や男子バレーボールといった種目の地域クラブ活動についても検討していきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

○地域クラブ活動を運営にあたっては、持続可能な仕組み作っていく必要がある。実証事業を通して支出シミュレーションや歳出と歳入の状況について試算を行った。

出典：取手市部活動地域移行推進協議会資料から

地域クラブに係る経費

資料

取手市部活動地域移行事業 支出シミュレーション

単位：千円

	人件費	謝礼	消耗品	使用料	保険料	合計	実施クラブ数
令和5年度	999	678	200	125	29	2,002	2クラブ実施 週2日勤務（コディネーター1人）
令和6年度	3,890	3,425	300	125	143	7,740	7クラブ実施 週4日勤務（コディネーター1人）
令和7年度	4,273	10,106	750	227	356	15,712	12クラブ（予定） 週3日勤務（コディネーター2人）
令和8年度	4,273	13,148	1,050	486	0	18,957	21クラブ（予定） 週3日勤務（コディネーター2人）

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

収支バランス

資料

取手市「地域クラブ活動」 歳出と歳入の状況について

単位：円

	歳出（総事業費）	歳入内訳		クラブ数（予定）
		県委託料	市補助	
令和5年度	2,142,000	1,496,150	646,000	2クラブ実施
令和6年度	7,953,000	4,071,000	3,882,000	7クラブ実施
令和7年度	15,712,000（推定）	7,011,000（推定）	8,701,000（推定）	15クラブ予定
令和8年度	23,230,000（推定）	未定	未定	21クラブ予定

出典：取手市部活動地域移行推進協議会資料から

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等③

取組の成果

- モデル事業を通して、地域クラブ活動を運営していくための試算を行った。試算を行ったことで、参加者の会費の徴収と指導者への報酬の支払いのバランスについても見通しを立てることができた。
- 会費については、年会費と月会費を徴収する方向で進んでいる。年会費は主に事務局の運営費にあて、月会費は主に指導員への報酬にあてる予定である。
- 受益者負担額の設定については、高額になることが予想されることから、継続的な行政の支援が必要である。

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

	会員数	月会費
令和5年度	2クラブ 27人	月6,600/人
令和6年度	7クラブ 106人	月6,250/人
令和7年度	15クラブ 300人	月4,400/人
令和8年度	21クラブ 420人	月3,800/人

※ 令和7年度と令和8年度の会員数に関しては、1クラブ20人で試算した

出典：取手市部活動地域移行推進協議会資料から

今後の課題と対応方針

- 地域クラブ活動は、全員参加ではなく自由参加であることから受益者負担はやむを得ない。しかし、受益者負担だけではクラブの運営は非常に厳しいものがある。学習指導要領においても「教育的意義を有する活動」と記載されることが予想されることから、国の事業として支援体制を整備し、保護者の負担をできるだけ少なくしたい。
- 実際に活動が始まれば、会費以外にも、ボールなどの消耗品の購入費を参加者が負担することになる。金銭的な理由で参加できないという生徒が出ないように、行政の支援だけでなく、ふるさと納税型クラウドファンディングや企業の協賛等、様々な形で中学生の地域クラブ活動を支援していく体制を作りたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

○生徒の移動の負担と安全を考慮し、大会を除いて活動はすべて拠点校を中心にした中学校で行った。

○参加生徒の経済的な負担を減らすために、中学校と共通理解を図った上で、学校の施設や備品を使用させてもらった。

取組の成果

○取手市内を東西の二つに分けて拠点校を設定した。自転車移動できる距離なので、事故も無く、安全に移動することができている。他校から、拠点校の平日の活動に参加する生徒もいた。

○中学校の理解もあり、施設や備品の使用については、平日の部活動で使用している物を共用で使用させてもらうことができた。

・部活動の種類が増えてほしい。 ・休日の活動時間を増やしてほしい。
・活動した後の専門的指導を受けて、さらに個人一人一人が成長することができる環境ができることが期待。
・安全に活動できるようにそれぞれの部の設備を整える。
・友達との関わりを地域全体で広げて、学びを増やして欲しいです。
・中学校部活動の地域移行で、いろいろな人とかわりながら仲良くなれることができるようになってほしいです。
・地域移行することによって、顧問、副顧問だけでなく、専門知識のある人が加わることによって、専門的な技術が身に付く。

・生徒に負担がかからないようにしてほしい。 ・参加できる部活動の輪が広がること。
・色々な人と色々な活動ができるから、将来にも繋がると思う。
・格差が生まれることはしないでほしい。指導者も、公平に生徒をみてほしい。
・参加費などのお金を県や国から援助してもいいとおもう。
・吹奏楽部は取手交響吹奏楽団と練習したいです。

5

出典：生徒対象のアンケート調査から

今後の課題と対応方針

○学校施設や備品の使用については、地域クラブ活動で使用するものと、学校の授業や行事で使用するもの、部活動で使用するものについて、学

校や関係部署と協議した上で細かなルールを作成し、お互いに気持ちよく使えるようにする必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組 平日の移行 文化部の地域移行

取組事項

○平日の部活動地域移行や文化部に地域移行についても、部活動地域移行推進協議会において検討した。

取組の成果

○平日の移行については、「改革実行期間」の前期において休日の部活動を地域に移行し、その中で平日の移行についても検討し、中間評価の時点で判断していくことになった。

○文化部の地域移行については、吹奏楽部については運動部と同様に地域移行を行う。

その他の文化部については、休日の活動実績がないことから地域移行は行わず、個人で市や公民館等の講座や行事に参加してもらうことになった。

今後の課題と対応方針

○平日の移行については、指導者の確保の問題があり、吹奏楽部の移行については、楽器の使用や運搬といった課題がある。こういった課題を踏まえながらも、子供たちにできるだけいい環境が作れるように対応していきたい。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

取手市では、令和5年度から中学校部活動の地域移行に取り組んでいる。「取手市部活動地域移行推進協議会」を設置し、取手市スポーツ協会、取手市スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ、取手市中体連、市PTA連合会、学識経験者、文化芸術関係団体の代表者に委員を委嘱し、教育委員会も加わって年に3回開催してきた。協議会を通して幅広く意見をいただき、事業推進に生かすようにしている。

また、実際に地域クラブ活動を運営していくための実証事業として、モデル事業を行っている。令和5年度は軟式野球と剣道の2つであったが、令和6年度は軟式野球2つ、剣道2つ、女子バレーボール、柔道、空手道の7つに増えた。さらに令和7年度は吹奏楽2つ、男子バスケットボール、女子バスケットボール、剣道の5つが加わって、12のクラブが「地域クラブ活動」として休日の活動を行う予定である。モデル事業を通して地域クラブ活動運営上の課題を精査し、令和8年4月からの全部活動の地域移行に向けて取り組んでいる。

これまでのところは、学校、地域クラブ活動指導者の先生方、参加生徒とその保護者等、関係者の理解と協力により、順調に進んでいる。

●成果の評価

- ・地域移行を進めるにあたっては、運営団体・実施主体の設立、指導者の選出・任命、受益者負担等の大きな課題があったが、2年間の取組を通して、具体的な見通しを立てることができた。
- ・モデル事業を行った7つのクラブについては、アンケート調査の結果からも、いい活動ができていた。令和7年度は12のクラブがモデル事業を行うので、これをグッドモデルとして、情報共有をしていきたい。
- ・広報活動を通して、生徒や保護者、教職員に対しては、部活動地域移行についての理解が進んできた。さらに、地域に向けても情報発信をしていきたい。

●今後に向けて

部活動地域移行も目的は、部活動改革、すなわち

- ①子供たちのために、スポーツ・文化活動の環境を整備していくこと。
- ②教職員の働き方改革。

と考える。令和8年4月からは、市内6中学校のすべての部活動の休日の活動を地域に移行する予定である。将来を担う子供たちのためにも、市、学校、生徒、保護者、各関係団体、各関係者とも十分に連携し、市をあげての支援体制を整備することで、より良い地域クラブ活動を作っていきたい。

2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者の声

●生徒アンケートの結果

令和6年度 取手市立中学校の部活動地域移行に向けてのアンケート調査について（生徒用）

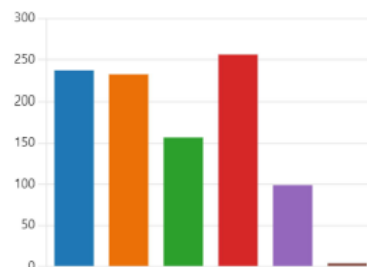
5.「中学校部活動の地域移行」について、基本的な考えをお聞かせください。

大いに進め方がいいと思う	40
進め方がいいと思う	196
どちらかといえば進め方がいいと思う	339
進めない方がいいと思う	160
わからない	714



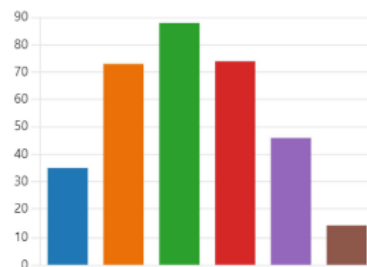
6. 進め方がいいと思う理由は何ですか。

専門的な指導が受けられるから	237
希望する活動を続けられるから	232
続けることで、将来のスポーツ活動や...	157
友達関係が、学校外にも広がるから	256
先生たちの働き方改革につながるから	99
その他	4



7. 進めない方がいいと思う理由は何ですか。

やりたいと思う地域クラブがないから	35
参加費など、お金がかかりそうだから	73
移動や送迎などに時間がかかりそう...	88
自分の学校以外の先生や生徒との...	74
私立中学校や民間クラブと差がでる...	46
その他	14



●生徒の声

- ・部活動の種類が増えてほしい
- ・休日の活動時間を増やしてほしい。
- ・活動した後の専門的指導を受けて、さらに個人一人一人が成長することができる環境ができることが期待。
- ・安全に活動できるようにそれぞれの部の設備を整える。
- ・友達との関わりを地域全体で広げて、学びを増やして欲しいです。
- ・中学校部活動の地域移行で、いろいろな人とかわりながら仲良くなれることができるようになってほしいです。
- ・地域移行することによって、顧問、副顧問だけでなく、専門知識のある人が加わることによって、専門的な技術が身に付く。

2.実証内容と成果③

アンケート結果・広報資料

令和6年度 取手市立中学校の部活動地域移行に向けてのアンケート調査について（保護者用）

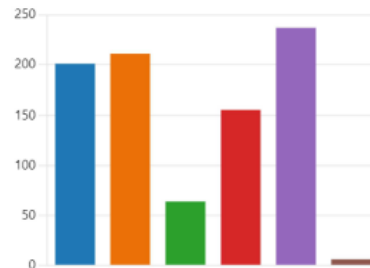
5.「中学校部活動の地域移行」について、考えをお聞かせください。

大いに進めた方がよいと思う	57
進めた方がよいと思う	161
どちらかといえば進めた方がよいと思う	199
進めない方がよいと思う	79
わからない	229



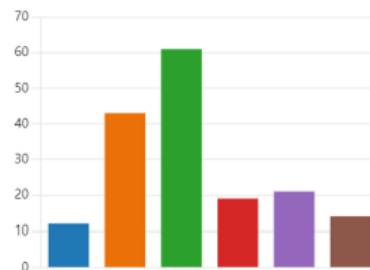
6. 進めた方がよいと思う理由は何ですか。

子供が専門的な指導が受けられる...	201
子供が希望する活動を続けられるから	211
子供の生涯スポーツ・文化活動につ...	64
子供の友達関係が、学校外にも広...	156
先生たちの働き方改革になるから	237
その他	6



7. 進めない方がよいと思う理由は何ですか。

子供がやりたいと思う地域クラブがな...	12
受益者負担など、お金がかかりそう...	43
移動や送迎などに時間がかかりそう...	61
子供が、自分の学校以外の先生や...	19
私立中学校や民間クラブとの格差...	21
その他	14



【保護者アンケートの結果】

令和6年度 取手市立中学校の部活動地域移行に向けてのアンケート調査について（教職員用）

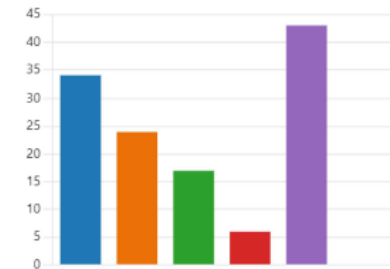
5.「中学校部活動の地域移行」についての、基本的なお考えをお聞かせください。

大いに進めた方がよいと思う	35
進めた方がよいと思う	9
どちらかといえば進めた方がよいと思う	5
進めない方がよいと思う	2
わからない	7



6. 進めた方がよいと思う理由は何ですか。

生徒が専門的な指導が受けられる...	34
生徒が希望する活動を続けられるから	24
生徒の生涯スポーツ・文化活動につ...	17
生徒の友達関係が、学校外にも広...	6
先生たちの働き方改革になるから	43
その他	0



7. 進めない方がよいと思う理由は何ですか。

生徒がやりたいと思う地域クラブがな...	1
受益者負担など、お金がかかりそう...	1
移動や送迎などに時間がかかりそう...	0
生徒が、自分の学校以外の先生や...	0
私立中学校や民間クラブとの格差...	0
その他	0



【指導者アンケートの結果】

2.実証内容と成果③

アンケート結果・広報資料

休日の中学校部活動が変わります！

休日（土曜日・日曜日・祝日）の中学校の部活動は、令和7年度末で終了し、令和8年度からは部活動ではなく、すべて『地域クラブ活動』での活動になります。

部活動を地域に移行する理由、目的

★少子化による部員数の減少や、中学校教職員の業務負担の増加により、学校単位での活動が難しくなっているため。

☆中学生が、続けてスポーツや文化活動ができる環境を作るために、中学校の部活動を、『地域クラブ活動』に移行することになりました。



中学校部活動と『地域クラブ活動』のちがいは？

	中学校部活動	地域クラブ活動
運営主体	各中学校	地域クラブ
参加者	当該校の生徒	市内の生徒
指導者	中学校の教職員、地域人材（年寄指導員、外年指導員等）	地域クラブ運営指導員（教職員の兼務者を含む）
活動場所	当該校の施設	学校施設や公共施設等
活動日	平日	休日（土曜日、日曜日、祝日）

取手市の部活動地域移行

取手市では、各中学校にある部活動の良さを活かしながら、**拠点を活用し、モデル事業を行い、『地域クラブ活動』への移行を進めています。**

拠点を活用しとは、自分の中学校に希望する部活動がない、部員数がそろっていないなどの場合に、**市が指定した拠点を中心に、複数の中学校の生徒が参加して一緒に活動をするというものです。**一つのチームとして、大会にも参加できます。



令和7年度の『地域クラブ活動』モデル事業

令和5年度から、『地域クラブ活動』のモデル事業を行っています。令和7年度は、以下の部活動が地域クラブ活動として休日の活動を行います。

種 目	拠点校・数校校（口印が拠点校）
競技野球（男・女）	口取手一中・黒川中・黒川南中 口永田中・取手二中（伊賀中の生徒も参加できます）
バスケットボール（男子）	口黒川南中・黒川中
バスケットボール（女子）	口黒川中・黒川南中
バレーボール（女子）	口黒川南中（黒川中の生徒も参加できます）
柔道（男・女）	口黒川中・取手一中（取手市西の中学生なら、だれでも参加できます）
剣道（男・女）	口黒川南中・黒川中 口取手二中（永田中の生徒も参加できます） 口取手一中
空手道（男・女）	口取手二中（取手市西の中学生なら、だれでも参加できます）
吹奏楽	口取手二中 口黒川南中

【Q & A】

Q：平日の部活動はどうなりますか？

A：平日は、今までと同じく中学校での部活動になります。

Q：地域クラブ活動の活動場所は？

A：基本には拠点校を中心に活動します。ただし、複数の学校の生徒が参加しているため、生徒の活動の負担を考慮しながら、計画的に活動場所を設定していきます。

Q：顧問のクラブチームとの違いは？

A：地域クラブ活動は、現地の各中学校の部活動を地域に移行（地域移行）するために、市が中心になって行うものです。顧問のクラブチームとは違います。

Q：参加費は？

A：令和7年度は、地域クラブ活動に移行するためのモデル事業として実施しているため、参加費などはかかりません。ただし、令和8年度からは、指導員への報酬やスポーツ安全保険料等、一定の参加費（年会費、月会費）が発生します。

【問合せ先】 取手市教育委員会スポーツ振興課 電話 22271821・7200
火曜日～金曜日、8:30～17:00



2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【取手ブレイブベースボールクラブと
永山軟式野球クラブ】



【取手二中剣道クラブ】



【藤代剣道クラブ】

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【藤代南バレーボールクラブ】



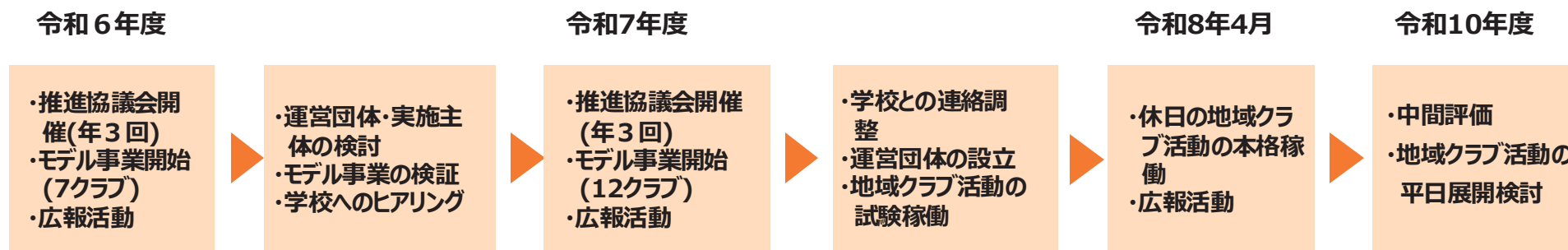
【取手市柔道クラブ】



【取手二中空手道クラブ】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



ステークホルダー

中学校、市スポーツ協会、市スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ、市PTA連合会、市教育委員会スポーツ振興課

経過

令和5年度から、取手市教育委員会スポーツ振興課が中心になって、部活動地域移行について取り組みを始めた。推進協議会を設置し、中学校、市スポーツ協会、市スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ、文化芸術団体、市PTA連合会の代表者を委員に任命し、幅広く意見を求めながら事業を進めている。

主な取組として、モデル事業を行いながら良い点と改善点の検証を行い、より良い地域クラブ活動を目指して取り組んでいる。

実施内容

モデル事業を行うにあたっては、各中学校で対象となる部活動の選定やその顧問の先生が兼職兼業での指導ができるかなど、現場の学校長の協力が不可欠である。中学校長会だけでなく、個別に各中学校を訪問し、モデル事業を行う部活動を決定していった。

令和6年度は、5中学校の11部活動が7つの地域クラブとして、拠点校方式で休日の活動を行った。

実施にあたって生じた課題

スポーツ協会や少年団にも指導者の派遣をお願いしたが、適任者が見つからず、6年度のモデル事業の指導員は、すべて中学校の教員が兼職兼業でやることになってしまった。教職員の働き方改革の視点からも、地域人材から指導員を見つけるようにしたい。

令和8年度からは、参加費を徴収することになるが、受益者負担だけではクラブの運営は非常に厳しいものがあることがわかった。行政の支援だけでなく、ふるさと納税型クラウドファンディングや企業の協賛等、様々な形で中学生の地域クラブ活動を支援していく体制を作りたい。

今後の展開

令和7年度は、吹奏楽部も含めた12の地域クラブ活動をモデル事業として実施し、令和8年4月からは、市内6中学校のすべての部活動の休日の活動を地域に移行する予定である。子供たちのためにも、各関係団体、各関係者と十分に連携し、より良い地域クラブ活動を作っていきたい。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

取手市部活動地域移行・取手市中学生地域クラブ活動のロードマップ

「取手市は、子供たちのスポーツ文化環境を整えるため、部活動地域移行に取り組んでいます。」

主な事業	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
取手市部活動地域移行推進協議会	- 取手市部活動地域移行推進協議会を設置し、広く地域団体から意見を求めた（各地域団体の代表に委員を委嘱）。 7月、10月、2月の3回開催した。	- 地域移行の受け皿となる取手市中学生スポーツ文化クラブ（TACC）の設立について協議する。 7月、10月、2月の3回開催する。 ※委員は5年度から継続。	- 取手市中学生スポーツ文化クラブの運営について協議する。 7月、10月、2月の3回開催する。 ※委員の改選年度、再任は可。	- 取手市中学生スポーツ文化クラブの運営状況について協議する。 7月、10月、2月の3回開催 ※委員は7年度から継続。
モデル事業	○軟式野球 ①（取手一中・藤代中・藤代南中） ○剣道 ②（藤代中・藤代南中） の2つが地域移行のモデル事業として休日の活動を行った。	○以下の8つがモデル事業として、地域クラブとして休日の活動を行う。 ・軟式野球 ①（取手一中・藤代中・藤代南中） ②（水山中・戸頭中） ・バスケットボール（女子） ③（水山中・戸頭中） ・バレーボール（女子） ④（藤代南中・藤代中） ・剣道 ⑤（取手二中・水山中） ⑥（藤代中・藤代南中） ・柔道 ⑦（取手一中・藤代中） ・空手道 ⑧（取手二中）	○令和6年度のモデル事業に加え、市立6中学校の半数程度の部活動が、地域クラブとして休日の活動を行う。 ※モデル事業以外の部活動は、休日も部活動として活動する。 ※モデル事業は7年度まで。	○以下の11の種目において、地域クラブ（TACC）として休日の活動をする。 ①軟式野球 ②サッカー ③バスケットボール（男女） ④バレーボール（女子） ⑤バドミントン（男女） ⑥ソフトテニス（男女） ⑦卓球（男女） ⑧剣道（男女） ⑨柔道（男女） ⑩空手道（男女） ⑪吹奏楽
広報活動・アンケート調査	- 取手市のHPに「部活動地域移行」のページを作成、発信。 9月、全中学校の生徒、保護者、教職員を対象にアンケート調査を実施。 1月、モデル事業の生徒、保護者、教職員にアンケート調査を実施。 - 新入生説明会において、保護者を対象に説明会を実施。	- 取手市のHPに「部活動地域移行」のページを作成、発信。 9月、全中学校の生徒、保護者、教職員にアンケート調査を実施する。 1月、モデル事業の生徒、保護者、教職員にアンケート調査を実施する。 - 新入生説明会において、保護者を対象に説明会を実施する。 - 取手市立中学校の教職員を対象に、説明会を実施する。	- 取手市HPの「部活動地域移行」のページに各クラブの活動を紹介する。 9月、全中学校の生徒、保護者、教職員にアンケート調査を実施する。 1月、モデル事業の生徒、保護者、教職員にアンケート調査を実施する。 - 新入生説明会において、保護者を対象に説明会を実施する。 - 取手市立中学校の教職員を対象に、説明会を実施する。	- 取手市HPの「部活動地域移行」のページに各クラブの活動を紹介する。 9月、全中学校の生徒、保護者、教職員にアンケート調査を実施する。 1月、TACCに参加の生徒、保護者、教職員にアンケート調査を実施する。 - 新入生説明会において、保護者を対象にTACCに関する説明会を実施する。 - 取手市立中学校の教職員を対象に、説明会を実施する。
運営団体・実施主体（TACC）	令和5年度は、取手市教育委員会スポーツ振興課が中心になって準備・運営をした。	- 令和6年度も、取手市教育委員会スポーツ振興課が中心になって運営する。 - 令和8年度から運営団体・実施主体となる取手市中学生スポーツ文化クラブ（TACC）の設立準備を進める。	スポーツ振興課と取手市中学生スポーツ文化クラブ（TACC）が協同で、試験的な運営を開始する。	- 取手市中学生スポーツ文化クラブ（TACC）による運営開始。 - スポーツ振興課は運営をサポートする。

出典：取手市部活動地域移行推進協議会資料から

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

茨城県 牛久市

自治体名：茨城県牛久市

担当課名：教育委員会スポーツ推進課

電話番号：029-873-2486

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	59 km ²
人口	83,920 人
公立中学校数	6 校
公立中学校生徒数	2,213 人
部活動数	60 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	令和7年度設置予定
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定中

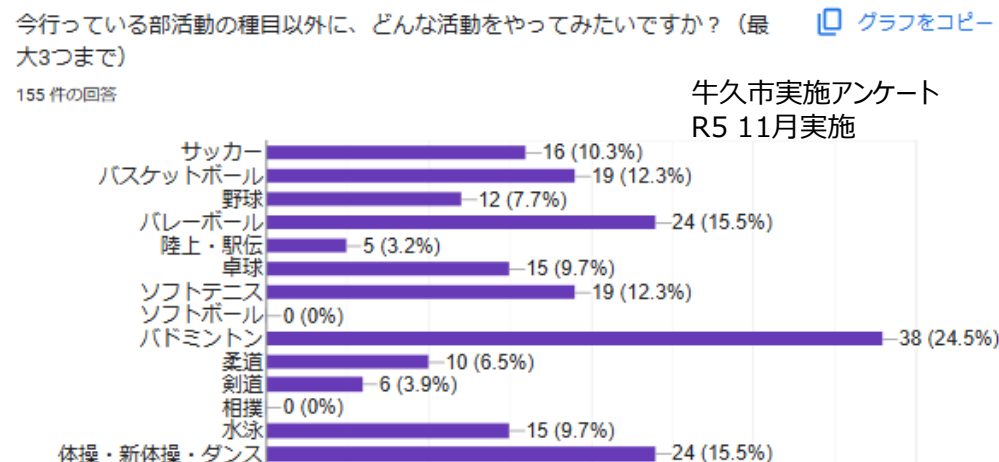
地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

今年度の実証事業では、野球、サッカー、女子バレーボール、バドミントンの4種目を実施。野球に関しては、各校で人数がおらず、チームを組めない状況のため、全校合同のチーム「牛久BBC」を作り、持続可能で自走できる方略を探った。

サッカー、女子バレーボールに関しては、参加者数が、1桁が続き、0人であることさえあった。この原因として、実証事業を実施した土日に部活動も同時に実施されていたことがあげられる。このことから、学校との調整が必要不可欠であるといえる。

また、バドミントンに関しては、当市には部活動自体はないが、昨年度に実施したアンケートでやってみたい種目で一番多かったため、採用したが、参加者数はこちらも1桁が続いた。この原因としては、PR不足やその他部活動が実施されていることで、参加者は部活動に参加して集まらなかったのではと考える。

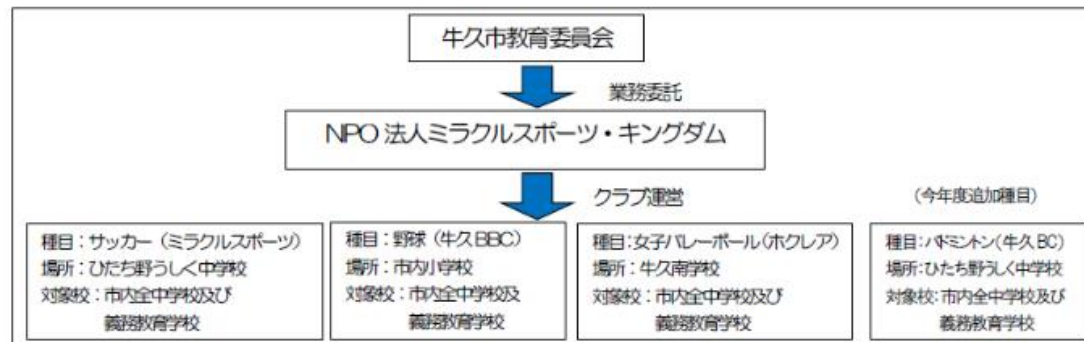
参加者が少ないということは収入が少なく、クラブの存続も危ぶまれ、補助金は永続的にあるものではないことから、1つ1つのクラブが自走するための方略や参加者を増やす方略を調査することは、引き続きの課題であるといえる。



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・NPO法人ミラクルスポーツ・キングダムとの業務委託契約
- ・参加者や参加費の管理
- ・学校との調整

◎首長部局

- ・予算措置等事務

年間の事業スケジュール

令和6年 6月	実証事業開始・月3回活動実施
令和6年 7月	月3回活動実施
令和6年 8月	月3回活動実施
令和6年 9月	月3回活動実施
令和6年 10月	月3回活動実施
令和6年 11月	月3回活動実施
令和6年 12月	月3回活動実施
令和7年 1月	月3回活動実施
令和7年 2月	月3回活動実施・各部顧問との意見交換会の実施

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	6 校	実施した地域クラブ総数	4 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		3 クラブ（3 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		1 クラブ
全体の指導者数	23 人	全体の運営スタッフ数	3 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
牛久BBC	協力団体	野球	月 3 回	9～12時	約23名	6～3月	市内中学校	8 人	0 人	月会費 3,000 円	その他：地域クラブ
ホクレア	協力団体	女子バレーボール	月 3 回	16～19時	約3名	6～3月	市内中学校	4 人	0 人	月会費 1,000 円	その他：地域クラブ
NPO法人ミラクルスポーツキングダム	運営主体	サッカー	月 3 回	9～12時	約6名	6～3月	市内中学校	3 人	3 人	月会費 1,000 円	その他：地域クラブ
牛久BC	協力団体	バドミントン	月 3 回	13～16時	約3名	6～3月	市内中学校	8 人	0 人	月会費 1,000 円	その他：地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 特になし

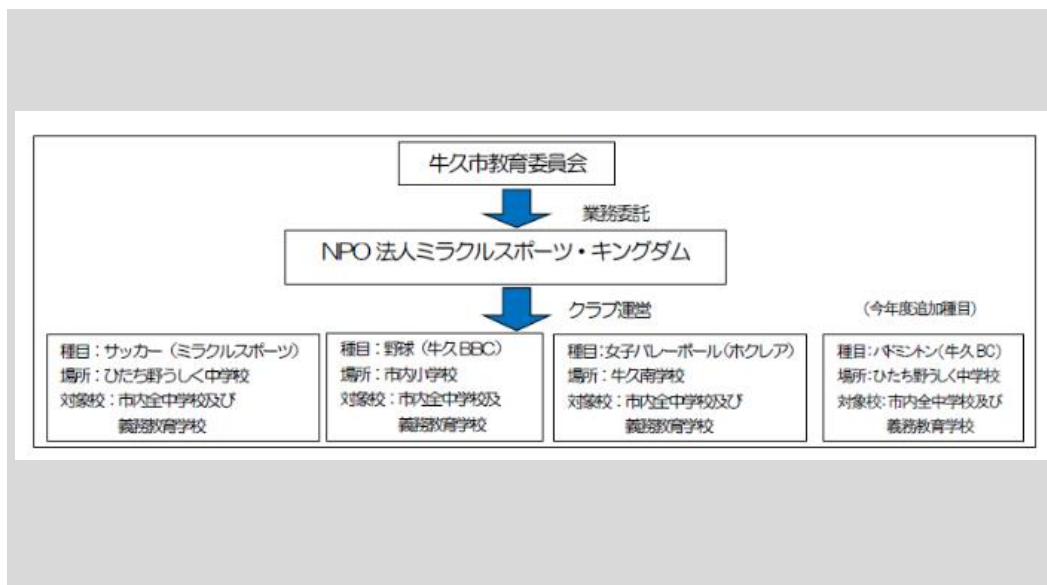
2.実証内容と成果

主な取組例

●活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー、野球、女子バレーボール、バドミントン
運営団体名	NPO法人ミラクルスポーツ・キングダム
期間と日数	サッカー：6月～3月 月3回 野球：6月～3月 月3回 女子バレーボール：6月～3月 月3回 バドミントン：6月～3月 月3回
指導者の主な属性	民間スポーツ事業者運営型
活動場所	市内中学校体育館及びグラウンド
主な移動手段	保護者の送迎や自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	サッカー：12,000円 野球：36,000円 女子バレーボール：12,000円 バドミントン：12,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者

役割：各指導者への連絡調整及び謝金の支払いを行う

●主任指導者 23名

役割：指導を行う

●運営補助者 2名

役割：統括責任者の補助を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

運営団体・実施主体の運営体制の整備や人材の確保など、持続可能な運営ができる組織体制の整備を行う。

取組の成果

モデル事業で実施している種目については、地域の指導者を年間を通して派遣することができたため、人材の確保はできているという可能性が示された。

しかしながら、モデル事業で実施していないほかの種目の指導者の確保については、未知数であるため、今後も調査を進めていく必要がある。

種 目	人 数
野球	8名
女子バレーボール	4名
サッカー	8名
バドミントン	8名

コーディネーターの具体的な動きの実績

コーディネーターの設置なし

今後の課題と対応方針

持続可能な運営という観点で課題が見られた。現在は、県からの補助金を用いて運営を成り立たせている部分が多い。しかし、補助金を頼りにしては、持続的な運営とは言えないため、次年度は、自らの資金を用いて持続的に運営するための方略を明らかにすることが必要である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

指導者に対して、資質向上のための研修の受講や資格取得を促進する。

取組の成果

実施できなかった。サッカーを除きそれぞれ有資格者がいたものの、サッカー指導をお願いしていた指導者については、競技経験を優先していたこともあり、資格所有にはこだわらなかった。本来であれば携わることが決定した段階で、資格取得についても促進していくべきであったかと思うがそこまでの取り組みとならなかった。

種目

サッカー
野球
バドミントン
バレー

資格有無

資格なし
資格あり
資格あり
資格あり

指導を受けている生徒の声

- ・指導者が子供達と年齢が近く、話しやすい雰囲気であり、部活動よりも長い時間でしっかり指導もしていただいた。
- ・学校の部活とは違う練習メニューを色々たくさんできたのでとても良かった。
- ・コーチがとてもフレンドリーで毎回すごく楽しかった。

今後の課題と対応方針

地域クラブが中体連主催の大会に出場する場合、競技によっては指導者の資格が必要な場合があるため、今後、資格取得の促進等を行うことが必要であると考えます。また、各競技ごとに必要な資格が大きく異なるため、整理が必要であると考えます。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

指導者の派遣、民間施設利用、
監修教材の提供・講師派遣など
について連携する。

取組の成果

指導者の派遣については、運営主体であるNPO法人ミラクルスポーツ・キングダムと連携することで、スポーツに長年関わってきた経験があり、育成年代の指導に対しての知見と意欲を持っている指導者を派遣できるよう取り組んだ。その中で、派遣した指導者の評判については、参加した生徒・その保護者から概ね好意的な意見が多く聞かれた。しかしながら、指導者派遣にとどまったこともあり、監修教材の積極的な活用や他講師の派遣による、生徒たちへの新たな発見につながるような活動とはならなかった。

施設の活用についても、中学校をベースにしていたこともあり、市内他の公共施設、民間施設での活動とはならず、民間企業との連携という点においては取り組むことができなかった。

バス等の運行実績

・実施なし

今後の課題と対応方針

生徒が経験できる活動を1つでも増やすことを考えると、今後多くの指導者の確保や活動場所である施設の確保が必要となる。特に指導者は、人数と指導者の質の両方が重要であるため、人材バンクの活用や部活動指導員など様々な制度を利用する必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

会費の適切な設定・徴収方法の検討や、保護者負担経費の調査を行う。

取組の成果

実施できなかった。

今後の課題と対応方針

どの種目についても月額1,000円という設定を行い実施（牛久BBCは3,000円）してきたが、参加者が伸び悩んだこともあり参加費の徴収は当初想定を大きく下回った。

その原因の一つとして学校部活動と今回のモデル事業が並行して実施されてしまったことにより、学校部活動が優先されモデル事業への参加が見送られる結果となってしまったと考えている。

また、実際にかかった経費を参加費のみで賄うためには、民間スポーツクラブ並みの収入を得られるような仕組み（質の高い指導者の確保や多くの活動場所、魅力ある活動など）を確立しなければ、継続的にクラブ運営をしていくことは困難であろうと考える。

牛久BBCは月額3,000円という設定に対して参加者が8名であったが、団体運営経費総額に対しての収入比率は低く、様々な工夫（公共施設の利用、学校施設の利用など）により支出を最低限に抑えやってくれていた。

今後継続していくためには、さらなる周知の徹底、理解促進が必要であり、参加する生徒が増えるような工夫（目的や内容）を考える必要があると考える。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

○今後、保護者等に負担が見込まれる受益者負担を低廉な額とすることや、生徒の安全を確保するため、学校体育施設を中心に実証事業の活動を実施するよう調整を行なった。

○学校へ訪問し、事業への協力及び施設の利用について調整を行った。

取組の成果

基本的には土曜日に活動する学校がほとんどであったものの、日曜日にも活動する種目があることで活動場所の選定に苦労した。実証事業の活動場所の選定において、市公共施設については事前に利用団体が決定していたこともあり、学校施設での活動をベースに考えていた。しかし、前述の通り学校ごとに活動日に差異があり難航した。そのようなことから学校長と事前に協議を行い、すべての実証事業該当種目で学校を使用することができたことは、本取り組みの成果であるといえる。

種目	場所
野球	市内中学校グラウンド
サッカー	ひたち野うしく中学校グラウンド
女子バレーボール	牛久南中学校体育館
バドミントン	ひたち野うしく中学校体育館

今後の課題と対応方針

学校部活動の受け皿となる地域クラブの活動が増えると、学校施設を使用するうえで、地域移行していない学校部活動と重複する部分が増える可能性がある。休日の部活動を地域に移行するという目的を達成するた

めには、土日の学校部活動の取り組みを廃止することが必要である。そのための受け皿の確保や教員・保護者の理解を得る取り組みが必要となる。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

令和6年度の実証事業では、野球、サッカー、女子バレーボール、バドミントンの4種目を実施した。

野球に関しては、各校で人数がおらず、チームを組めない状況のため、全校合同のチーム「牛久BBC」を作り、活動を開始した。指導者は顧問の先生の兼職兼業と地域の指導者で構成して、活動した。

サッカー、女子バレーボール、バドミントンに関しては、参加者数が、1桁が続き、0人であることさえあった。この原因として、実証事業を実施した土日に部活動も同時に実施されており、わざわざ実証事業には参加する生徒がいなかった、また、当市のPR不足が影響していることがあげられる。このことから、学校との調整が必要不可欠であり、実証事業を実施する種目については、土日の活動は休止し、実証事業のみとするなどの英断をする必要がある。

また、参加者が少ないということは収入が少なく、クラブの存続も危ぶまれ、補助金は永続的にあるものではないことから、1つ1つのクラブが自走するための方略を調査することが、引き続きの課題である。

●成果の評価

当実証事業では、受益者負担を少しでも減らせるように、生徒の安全を確保するため、学校体育施設の使用を促進した。昨年度も同様に学校体育施設の使用していたので、定着してきていると考える。

今後についても、使用料のかからない学校体育施設の使用をベースとし、学校長との調整も継続していきたい。

●今後に向けて

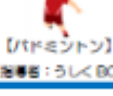
土日の学校部活動が続いていく限り、地域クラブ活動への移行は進まないと考えるため、どこかのタイミングで土日の学校部活動を休止する英断をする必要がある。そのためには、教育委員会及び学校での意思疎通及び合意形成が必要不可欠であるため、その強化を図っていきたい。

また、協議会を設置できていないため、協議会を設置し、地域移行への促進を図っていきたい。

2.実証内容と成果③

アンケート結果・広報資料

**令和6年度
運動部活動の地域移行モデル事業
参加者募集**

種目	場所	日時	参加費
 【サッカー】 指導者：NPO法人ミラクルスポーツ・キングダム	ひたち野うしく中学校 グラウンド 雨天時： ひたち野うしく中学校 体育館前庭併用可	日曜日 9時～12時	月額1,000円 ※月2～3回程度 実施予定
 【野球】 指導者：NPO法人ミラクルスポーツ・キングダム ※6月でこの活動は終了し、7月より牛久バスボールクラブでの活動となります。	牛久第一中学校 グラウンド 雨天時： 牛久第一中学校 プロムナード	日曜日 9時～12時	月額1,000円 ※月2～3回程度 実施予定
 【バレーボール】 指導者：ホクレア	牛久南中学校体育館	日曜日 16時～19時	月額1,000円 ※月2～3回程度 実施予定
 【バドミントン】 指導者：うしくBC	ひたち野うしく中学校 体育館	日曜日 13時半～16時半 ※都合で休みのため、7月、8月の実施はありませんので、ご了承ください。	月額1,000円 ※月2～3回程度 実施予定

『いろいろなことにチャレンジしてみませんか！』
 自分が「これだ」と思えるものに出会えるようにどんどん挑戦してみよう！
 人それぞれの「きっかけ」が見つかるかもしれません。

※強制参加ではありません。希望者のみの参加となります。

問い合わせ：牛久市教育委員会スポーツ推進課（牛久運動公園内）
TEL 029-873-2486

【生徒への参加啓発チラシ】

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【モデル事業野球】



【モデル事業野球】



【モデル事業野球】



【モデル事業野球】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和6年

・モデル事業の実施

月に3回日曜日に地域移行のモデル事業として、地域の指導者が行う活動を4種目（野球、サッカー、女子バレーボール、バドミントン）実施した。

野球に関しては、各校で人数がおらず、チームを組めない状況のため、全校合同のチーム「牛久BBC」を作り、活動をした。そのため、参加者は毎回平均で20名ほどいた。

しかし、そのほかの種目（サッカー、女子バレーボール、バドミントン）は、学校部活動との練習時間とも被り、参加者が少なかった。そのため、学校との連携及び土日の学校部活動を実施しない等の決断も必要である。

また、各種目の顧問を集め、現状の調査の実施もした。

令和7年

・モデル事業の実施
・学校現場との調整
・協議会設置、検討開始
・人材バンクの設置

令和7年度については、自走できる地域クラブの方略の調査や受け皿となるクラブ探しを実施する。

また、協議会を設置し、地域クラブ活動の促進を図り、広報活動の強化も図る。

人材バンクも設置し、指導者の確保に努める。

令和8年

地域クラブ活動
の開始

令和8年度の総体終了後に完全移行を目指す。

また、令和7年度に引き続き人材の確保に努める。

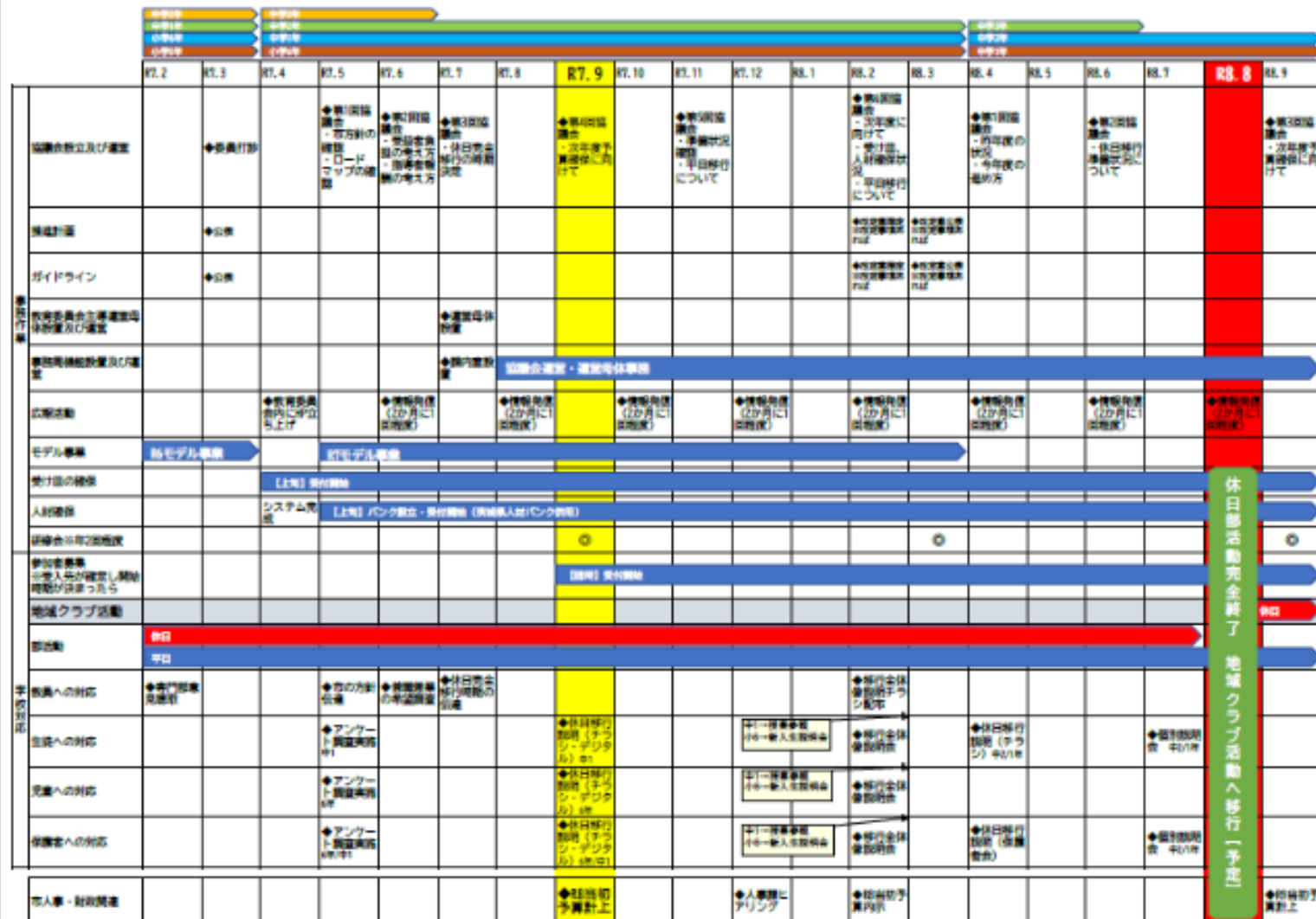
令和9年

地域クラブ活動
の拡大

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

部活動の地域移行 今後のロードマップ（案）



休日部活動完全終了
地域クラブ活動へ移行（予定）